公益財団法人 日本ハンドボール協会編　平成26年12月1日発行(毎月1回1日発行) 通巻548号

ハンドボール

12

DEC. 2014 No.548

特集
第17回 アジア競技大会
第69回 国民体育大会



[表紙写真] 第17回アジア競技大会決勝、対韓国戦の東濱裕子選手：写真提供・スポーツイベント社

公益財団法人 日本ハンドボール協会
http://www.handball.or.jp/



代表取締役　青木 理恵







販売から賃貸管理までトータルサポート

私たち株式会社ユリカコーポレーションは、お客様方の将来設計において、不動産を用いた資産づくり・将来的な安定収入を得ていただくご提案をさせていただいております。



創業以来、多くのお客様に支えられ今日に至りました。
心より感謝申し上げます。
皆様方の強いご要望を頂きまして、
2014年10月から自社ブランド『 YURIKA ROSE 』(ユリカ ロゼ) シリーズをスタート致しました！
第一弾の『 YURIKA　ROSE　飛鳥山公園 』は既に完売致しました。ありがとうございます。
第二弾の販売を乞うご期待！！

http://yurika-co.jp/

株式会社ユリカコーポレーション

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2-6-2 神田セントラルプラザ1202
TEL：03-3525-8986 / FAX：03-5295-8188

Jr 指導・活動の充実が普及・強化に繋がる！

―充実、楽しさが日本のハンドボールを創る―



公益財団法人 日本ハンドボール協会参事 小学生委員長　山本　繁

1．小学生チームの重要性

今年の全国中学校大会の男子決勝戦は、３年前の小学生全国大会と同じチームの中学校同士でした。それが最高に良いこと、理想だとは思っていませんが事実です。もちろん、中学校の指導者の方々の努力は並大抵のものではなかったと思います。でもまた、Jr 指導の大切さも想像に難くないと思います。なによりもハンドボール特有の動きや判断力、それを駆使したパスワークとシュート技術等は、そう簡単には身に付かないのでしょう。小学校での経験者と中学校から始めた者との融合が、新たなチームパワーとなるのだと思います。

小学生チームの重要性については、都道府県協会の会長・理事長さん方をはじめ多くの方々が認識しており、具体的に力を入れて活動している都道府県も多くなってきています。感謝申し上げます。

2．Jr 指導、活動の充実

小学生指導で大切なことは、指導内容や活動を充実させることです。では、『充実』とはどういうことでしょうか。

○適切な練習メニュー（発達段階として）	○効果的な練習メニュー（限られた活動時間の中で）
○中高を見通した練習メニュー	○態度・規律
◎ハンドボールへの意欲・真面目さ・直向きさ	

これらを併せ持った活動をしているチームが理想的ですが、実際このような活動をしているチームは、全国にたくさんあります。全国を歩いて、そういう素晴らしいチームをたくさん見てきました。

また、小学生のスポーツ活動として大切なことに、学校体育の『運動の楽しさ　高田四原則』というものがあります。参考にしていただけたら幸いです。

○動く楽しさ（投げる、跳ぶ、走る）	○伸びる楽しさ（できる楽しさ）
○解る楽しさ（できなくても…）	○集う楽しさ（仲間はいいね）

知ってか知らずか、この四原則を踏まえた指導をしている素晴らしい指導者もたくさんいます。
「ハンドボールが楽しい！　大好き !!」という子供達を、どんどん増やしたいです。

3．Jr 指導の連携強化

近年、NTS をはじめ日本協会内で、Jr 指導についての連携が強まっています。指導委員会、技術委員会、NTS 委員会、リーグ機構が小学生委員会と連携し、情報交流や講習会等を実施しています。講師には、各委員会のスタッフや Jr ナショナルチームの監督やトップ選手等を依頼し、小中高指導者が連携していく流れが一層出てきています。

こうした流れに対して、「それは強化ですか？　普及ですか？」と問われることがよくありますが、私は、「**指導内容の充実**を図っています。それが、普及にも強化にも繋がります。」と答えています。

4．今後の課題

△女子部員、女子チームの減少傾向　⇒　原因究明と対策をします！
○低学年などの発達段階に応じた練習メニューと、適切なボール選定
○チーム立ち上げや、円滑・順調なチーム運営へのサポート
○「J クイックハンドボール」への理解と浸透、実践推進
○都道府県小学生委員や全国すべての小学生チーム指導者との情報交流

このように、**小学生委員会では、普及と指導の両面において活性化と活動内容の充実を図っております。**

今後も、小学生専門委員会と関係各機関との連携を図り、全国の現状を正確に把握し、成果と課題を明らかにし、普及と指導に当たってまいります。ご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

2019年
女子世界選手権、
2020年
東京オリンピック
に向けての動向

（公財）日本ハンドボール協会
専務理事　川上 憲太



2013年9月7日、2020年夏季五輪の開催都市を決める国際オリンピック委員会（IOC）総会がブエノスアイレスで開かれ、IOC委員の投票で東京が選ばれた。1964年以来56年ぶりで、２回目の開催はアジアで初めてとなる。更には、2013年10月28日、2019年女子世界選手権の開催国を選ぶ国際ハンドボール連盟（IHF）の理事会がカタール・ドーハで開かれ、日本を開催国に選出し熊本開催が決まった。1997年に熊本で開かれた男子大会以来、22年ぶりとなる。このように、昨年には、世界ハンドボール界の最大イベント２つが日本での開催に決定する機会が与えられた。それから１年が経過、大会まで５年以上の期間もあり未だ準備期間ではあるが、現在の進行状況について川上専務理事に伺った。

● 2020年東京オリンピック

今年１月に設立された東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会（TOCOG）は、来年２月までに大会基本計画を国際オリンピック委員会へ提出することが最初の大きな仕事であるとしており、各競技団体には大会の概要が提示されている。その中では、実施される各競技の運営責任者となるスポーツマネージャーの選出を要請されているが、具体的にはこれから始まると理解している。10月にはIHFハッサン・ムスタファ会長が来日し、2020年オリンピック・パラリンピック組織委員会・森会長、日本オリンピック委員会・竹田会長、文部科学省スポーツ局・久保局長、ハンドボール議員連盟・山口会長以下８名等にもお会い頂き、2019・2020の準備の概ねの状況を把握して頂いた。ご承知の通りハンドボール会場としては、国立代々木競技場が予定されている。丹下健三氏によって設計された世界的に有名なこの建物は、高張力による吊り屋根や多くのレリーフを有し、1964年東京大会の水泳及びバスケットボールの競技会場であった。現在でもオリンピックレガシーとして高い評価を受けているが、ハンドボール会場としての国際ハンドボール連盟（IHF）が定める詳細規定への対応など、これからの課題も多々ある。いずれにしても、TOCOG及びIHFの指導の下で、多岐に亘る様々な課題への具体化を進めていくことになる。

【参考情報】

夏季オリンピックのハンドボール競技は1936年のベルリン大会と、1972年のミュンヘン大会以降に採用されている。なお、女子は1976年のモントリオール大会以降に採用されている。過去に日本は、男子が５大会、女子が１大会に出場を果たしている。

第24回オリンピック競技大会（1988／ソウル）
……………………………………………男子／11位
第23回オリンピック競技大会（1984／ロサンゼルス）
……………………………………………男子／10位
第22回オリンピック競技大会（1980／モスクワ）
……………………………………………日本不参加（男子）
第21回オリンピック競技大会（1976／モントリオール）
……………………………………………男子／９位
第21回オリンピック競技大会（1976／モントリオール）
……………………………………………女子／５位入賞
第20回オリンピック競技大会（1972／ミュンヘン）
……………………………………………男子／11位

審判としてオリンピックに出場の日本人ペアは、1992年バルセロナオリンピックに島田房二氏（故人）と後藤登氏（現日本協会参事）のペアが日本人初の「オリンピックレフェリー」であるが、その後は途絶えている。現在、IHF公認の日本人ペアは３組あり、2016年のリオ出場を経て、2020年の東京では日本人ペアによる決勝の吹笛が実現するのも夢ではなかろう。（IHF公認審判は池渕智一・檜崎潔、太田智子・島尻真理子、本田昭太・田渕元雄の３ペアであり、池渕智一・檜崎潔ペアは、来年１月にカタールで行われる男子世界選手権のレフェリーとしてノミネートされている）

● 2019年女子世界選手権

世界選手権はIHFの指導の下で日本ハンドボール協会（JHA）が進めていく大会となる。熊本県、熊本市、熊本県ハンドボール協会と協調した大会招致委員会から始まり、決定後には準備委員会、そして来年の９月には一般財団法人として大会組織委員会を設立させ進めていく。更に2015年９月迄には、熊本県、熊本市、熊本県ハンドボール協会と一層の協力・支援を戴き実行委員会を発足させ、大会概算予算、実行組織などの具体化を図っていく予定である。すでに大会ロゴマークの選定に入っており、来年３月には決定する。前回1997年男子世界選手権での実績から見れば、十数億の予算となり、大会運営のみならず財政面でもきちんと結果を残せる大会を目指していきたい。

【参考情報】

1997年第15回世界男子ハンドボール選手権は、1997年5月17日から6月1日まで、パークドーム熊本（熊本県熊本市）をメイン会場として開催された。大会には24か国が4つのグループに分かれ予選を展開、日本はAグループで4位となり、決勝トーナメントで1995年大会の覇者フランスと対戦する。パークドーム熊本で行われたフランスとの対戦は、22対21と1点差で惜敗したが、スウェーデン人監督のオレ・オルソン氏に率いられ、熊本の大声援を受けた日本は強豪フランスを終盤までリードした。

大金星かと思われた終了間際にジャクソン・リシャーソンに同点シュートを決められ、その後に逆転も喫し敗戦した。大会記念切手も発行され、熊本を代表する「熊本城」と本大会のキャッチフレーズである「ボールもひとつ　地球もひとつ」が表現されていた。



■原画作者について
友枝　雄策（トモエダ　ユウサク）
〈グラフィックデザイナー〉

● 2016年、2019年、2020年に向けての強化関連の状況

今年度の各カテゴリーの主要国際大会も終え、今年９月には「オリンピック強化指定選手」（男女各33名）の選考を終えたところである。このメンバーは2019・2020年での「メダル獲得」のために特化した強化を進めていくものである。メンバーには、現日本代表選手や大学生、高校生を含んでおり、ディフェンス・オフェンス・ゴールキーパー・トレーナー等の専任の指導体制を敷く中で強化を図っていくことになる。選考されたメンバーは一定期間で見直し、絞り込みを行い、海外遠征・海外合宿や国際大会への参加を積極的に図り、国際基準での強化を行う。又、ナショナルスタッフにはボランティアではなく有給での処遇も検討、外国人スタッフの登用や、分析班、総務班、等も充実を図って行きたいと考えている。これらには、現行の通年予算の他に相当の費用も必要となるが、一つには、文部科学省のオリンピックに向けた強化予算の動向を見極めたい。文部科学省が発表した2015年度予算の概算要求では、14年度予算に比べると95億円の大幅増であり、要求項目には、強化事業で国から補助を受ける際の３分の１の競技団体負担の解消も盛り込まれている。国からの補助金・助成金はともかくとして、協会独自での強化費の確保に取り組まなければならない。マーケティング活動による資金確保を筆頭に、日本協会登録料にプラス特別強化協力金（仮称）として協会登録料への上乗せ、日本リーグ関連企業の皆様にも強化支援金を、一般の皆様からの寄付金・支援金等のお願いをするなど、組織決定は未だであるが是非とも実現していきたいと考えている。今後は「オリンピック強化指定選手」への具体的な強化計画を示し、ハンドボール関連者全員の支援で取り組んでいきたい。

【参考情報】

◆ 2016年リオデジャネイロ・オリンピック大会への道筋

1．第31回リオデジャネイロ夏季オリンピック競技大会
　開催期間：2016年8月5日（金）～8月21日（日）
　技種目数：28競技306種目
　　　　　（7人制ラグビーが追加、更にゴルフが復活）
　会場：リオ・バラ地区 Olympic Training Center - Arena 4
2．オリンピック出場国数　男女各12カ国
3．参加決定への道筋（10月時点での予定で作成しており、変更もあり得る）

開催国のブラジル、直近の世界選手権優勝国、4大陸（欧州・アジア・アフリカ・パンアメリカン）の予選勝者国が2016年1月頃までに決まり、併せて6カ国が決まる。その後に、敗者国にて世界最終予選が2016年4月頃に開催され最後の6カ国が決まる。

日本が参加するオリンピックアジア予選は、女子が2015年10月10日から20日、男子が10月25日から11月5日に開催予定である（場所は未定）。この大会の優勝国はアジア代表として、リオ出場が決まる。更に、2位の国は翌年開催の世界最終予選に廻ることになり、グループ2位までに入ればオリンピック出場が決まる。

第17回 アジア競技大会

写真提供：スポーツイベント社

開催期間：2014年9月19日－10月4日
※ハンドボール競技は
9月20日－10月2日

開 催 国：韓国・仁川

男子：最終順位

優　勝：カタール
準優勝：韓国
3　位：バーレーン
4　位：イラン
5　位：クウェート
6　位：オマーン
7　位：サウジアラビア
8　位：チャイニーズタイペイ
9　位：日本
10　位：中国
11　位：香港
12　位：モンゴル
13　位：UAE
14　位：インド

女子：最終順位

優　勝：韓国
準優勝：日本
3　位：カザフスタン
4　位：中国
5　位：ウズベキスタン
6　位：香港
7　位：タイ
8　位：インド
9　位：モルディブ

第17回アジア競技大会団長報告　団長 川上 憲太

第17回アジア競技大会は、韓国・仁川市でアジア45の国と地域の代表選手が集い、9月19日の開会式から10月4日閉会式まで開催されました。

ハンドボール競技は9月20日から男女共予選リーグが開始され、男子のオープニングゲームは、なんとDグループに入った韓国と日本がいきなり対戦、熱戦を展開しましたが、残念ながら敗れることとなりました。A・B・C・D 4グループ2位になれば決勝トーナメントに進めた訳ですが、翌日のチャイニーズ・タイペイにまさかの敗戦。立ち上がりからタイペイの若くて元気なプレーに終始ペースがつかめず敗れることとなりました。「勝ちに不思議な勝ちあり」「負けに不思議な負けなし」といわれるように、敗戦には必ず沢山の原因が潜んでいます。1月のアジア選手権に続いて9位という不本意な成績に終わり、果たしてこれが日本の実力であるのか、真の原因を分析し、突き止めて早急に手を打っていかねばなりません。残り試合でDグループ3位となり、順位決定ラウンドに回らざるを得なくなり、最後の中国戦では若手の力で逆転勝利しました。なんと中東勢とは1カ国とも戦わないで終わりました。

女子はBグループで、カザフスタンの大型選手に若干手こずりましたが、順当に勝利し予選リーグを1位で通過。この時点で4位以上が決まりました。中国に勝利し、10月1日に韓国との決勝戦となりました。これも完全アウェーの中、前半から韓国の勢いに圧倒され、銀メダルとなりました。チームも若手・新人が活躍しリオ予選に期待が持てる手ごたえを感じました。皆様ご期待ください。

アジア競技大会は前回の中国・広州に比べると随所に物足りなさを感じました。選手村も建設途中の高層マンションを使い、エレベーター・各部屋清掃・使い勝手にかなり不自由を感じました。食事も単調なメニューが続き、選手にとって少し物足りない内容でした。競技場へのアクセスはあまり不自由を感じませんでした。チーム担当も大変気配りの良い人（特に女子）が担当で、満足いく対応でありました。試合日程が大変長期間に亘り、レストデイが多く、もう少しうまくスケジューリングが出来ないかと思いました。競技会場は概ね、諸施設も完備し、コンパクトな会場作りでした。特別に仮設を組み立てたり、コストをかけている事はありませんでした。競技はAHF主導のもと行われ、日本からはTD 2名、レフェリー2ペアが参加。池渕・檜﨑ペアは男子準決勝、3位決定戦を吹笛し、アジアでレフェリーの地位を堅持していました。いずれにしても男子の強化対策、女子の更なる戦力アップに早急に手をつけ、リオ予選に対応していかねばなりません。

男子：予選リーグ星取表

	男子Dグループ	KOR	TPE	JPN	IND	数	勝-分-敗	得点	失点	差	点
1位	韓国（KOR）		27○14	31○24	39○19	3	3-0-0	97	57	40	6
2位	チャイニーズタイペイ（TPE）	14●27		31○28	39○20	3	2-0-1	84	75	9	4
3位	**日本（JPN）**	24●31	28●31		47○12	3	1-0-2	99	74	25	2
4位	インド（IND）	19●39	20●39	12●47		3	0-0-3	51	125	-74	0

男子：本選リーグ星取表［9-12位決定リーグ戦（予選リーグ3位によるリーグ戦）］

	男子9-12位グループ	JPN	CHN	HKG	MGL	数	勝-分-敗	得点	失点	差	点
9位	**日本（JPN）** D3位		32○31	41○17	50○6	3	3-0-0	123	54	69	6
10位	中国（CHN） C3位	31●32		50○23	43○12	3	2-0-1	124	67	57	4
11位	香港（HKG） B3位	17●41	23●50		32○19	3	1-0-2	72	110	-38	2
12位	モンゴル（MGL） A3位	6●50	12●43	19●32		3	0-0-3	37	125	-88	0

女子：予選リーグ星取表

	女子Bグループ	JPN	KAZ	UZB	HKG	MDV	数	勝-分-敗	得点	失点	差	点
1位	**日本（JPN）**		23○20	51○18	37○8	79○0	4	4-0-0	190	46	144	8
2位	カザフスタン（KAZ）	20●23		37○23	40○13	56○5	4	3-0-1	153	64	89	6
3位	ウズベキスタン（UZB）	18●51	23●37		23○22	57○7	4	2-0-2	121	117	4	4
4位	香港（HKG）	8●37	13●40	22●23		41○7	4	1-0-3	84	107	-23	2
5位	モルディブ（MDV）	0●79	5●56	7●57	7●41		4	0-0-4	19	233	-214	0

アジア競技大会

強化本部長　津川　昭

女子代表は当初からの目標であった「銀メダル以上」を何とかクリアできましたが、男子代表は9位と、過去ドーハでの第15回アジア競技大会での6位というワースト記録を塗り替えてしまいました。リオ予選を一年後に控え、そして2020東京の機運が盛り上がる中、全国のファンの皆様や、関係者の皆様の期待を裏切り、強化の責任者として大変申し訳なく、心よりお詫び申し上げます。

男子代表チームは4月に松井監督体制となり、9月のアジア大会まで、欧州遠征を含めますと、約70日以上のトレーニング日と日韓戦を含め10試合の対外試合を積んできました。松井監督の方針であります「早くて速いハンドボール」をテーマに、選手の選出も走力と俊敏性を重視した布陣が組まれました。また、ディフェンス指導とピボットプレイヤーの育成が出来るよう、コーチには元代表選手でもあり、日本リーグの監督経験を持つ山口氏が就任いたしました。チームはアグレッシブなディフェンスから、どこからでも速攻が繰り出せるようトレーニングを積みました。新チーム編成間もなく、広島で日韓定期戦が開催されましたが、結果は22対24で敗れたものの、課題であった積極的なディフェンスを展開することが出来ました。欧州遠征でもリスタートをはじめ、一試合を走りきることで、相手チームの疲労を誘い、後半20分以降ラフプレーから退場を誘発し、勝負どころを勝ちきるなど、成果を感じ取って帰国してきました。今回のアジア大会、日本男子チームはDグループで、この上位2チームが二次予選リーグに進出、A-1、B-2、C-1、D-2で1グループ、A-2、B-1、C-2、D-1でもう1つのグループとなりますが、組み合わせからC-1のカタールはほぼ固い状況だけに、何とかD-1位で二次リーグに進出したい韓国は初戦に日本戦を持ってきました。結果、日本は韓国に敗れたわけですが、その敗戦を引きずったまま翌日タイペイ戦を迎えます。タイペイが油断のならない相手であることは、スタッフ一同重々認識していたのですが、それでも「まぁ何とかなるだろう」という心に隙があったように思います。「一度悪い流れになると立て直しに時間がかかる」という弱点がある上に、どうしても負けられない試合となると更にそれが増長し、スパイラルに落ち込む可能性が高まります。技術的にも体力的にも決して劣っているとは思いませんが、今後如何に「精神的逞しさ」を培っていくかが大きなテーマであると考えています。

女子代表チームは、海外移籍組（特に石立選手は契約の関係で大会が始まってからの合流）との調整が十分組めない、また事情で戦力が完全に整わない中での大会となりましたが、そんな中、新戦力が加わり確実にパワーアップしたカザフスタン、ベテランを戻し戦力を整えてきた中国を破り、何とか決勝に進出、その時点で「銀メダル以上」を確保したことは、それなりの評価が出来ると思います。完全なアウェーで迎えた決勝戦、韓国は怪我から復帰したベテラン選手も加わり、地元開催となるアジア大会を完璧な状態で迎えました。日本が競ることが出来たのは前半10分過ぎまでで、そこからは一方的でした。会場の雰囲気と韓国のパワフルな攻撃に飲み込まれ、自分達のハンドボールを見失ったかのようでした。ここ最近、韓国とは僅差のゲームを続けていただけに大変残念な結果ではありましたが、今回の韓国チームは、そのまま世界大会でメダルを獲得できると感じさせるほど充実していました。事実、打倒韓国を目指している中で、日本も着実に力をつけてきており、世界選手権などでもそれは現れています。カザフスタン戦、中国戦などでは若い選手の活躍も見られました。女子代表は体格的ハンディーを、攻撃的なディフェンスを引くことで、活路を見出そうとしています。そのため同じ「攻撃的ディフェンス」でも、何種類かのパターンに取組んでいますが、今大会に限って言えば、少し本来の「攻撃的」という、選手の野性的な動きが出来なかったように感じています。

いよいよ、リオ五輪アジア予選まで一年となりました。来年度は国内スケジュールも大幅に変更して頂き、十分な代表活動が可能です。2020は開催国として五輪出場となりますが、是非その前に、自力で五輪出場を果たせるよう強化本部の総力をあげて取組んでまいります。変わらぬご支援・ご声援をよろしくお願い申し上げます。

男　子

「第17回アジア競技大会」に参加して

日本代表男子チーム監督　**松井 幸嗣**

1．チームのテーマ

前回大会は韓国、イランに続き第3位という成績で大会を終えた。この大会では予選リーグをトップで通過し、準決勝でイランに勝利して決勝に進出の予定であったが、1点差でイランに敗れ、3位決定戦でサウジアラビアに勝利した大会であった。

今大会では前回大会を上回る「優勝」を目標に強化してきた。「早くて速いハンドボール」をチームのテーマとし、判断力の“早さ”とスピードの“速さ”を活かしたハンドボールを基本的な考え方とした。また、アジア№1の奪回及び世界基準に対応しうる「日本独自戦法」として、攻防の切り替えが速い、機動力を活かしたスピードハンドボールを追求した。

2．選手の選考と大会での対策

チームのテーマに添った判断力の早さとスピードの速さを備えている選手26名をセレクトし、約50日間の強化合宿と2週間の欧州遠征により16名の選手を選考した。

大会では大型なチームとの試合が予想されるため、チームディフェンスでの戦術である機動力を活かしたディフェンスにより、相手チームのミスを誘発したり、攻撃のリズムを遮断する戦略にて対応し、チームオフェンスでは相手のディフェンスシステムにより攻撃パターンに変化をつけて対応した。速攻、クイックスタートもオフェンスの戦術のひとつとした。

3．試合の経過と戦評

（1）予選一次リーグ

予選一次リーグは優勝候補の韓国、若手の成長やチーム力を上げてきたチャイニーズタイペイ、アジア競技大会の常連出場国インドとの対戦となった。

予選リーグでは次の二次リーグに進出するためにも最低でも2勝1敗をキープしなければならなかった。

しかし韓国、チャイニーズタイペイに敗れ1勝2敗で9～12位決定戦に出場せざるを得ない結果になってしまった。

①韓国戦

日本　24（11-17，13-14）31　韓国

初戦の韓国戦は予想された事ではあったが、会場の雰囲気も完全にアウェームードになり、異様な雰囲気のなか試合が始まった。

前半16分頃までは、お互いに得点の取り合いで試合が進んだが、16分過ぎから韓国に5連続得点を許し、一気に点差が開いた。結局11対17で韓国にリードを許し前半が終了した。

後半の立ち上がりには3連続得点を許し、韓国に主導権を握られて試合は進んで行くが、18分に4点差まで追いつく。しかしその後も連続得点を許し24対31で敗れ、初戦を飾ることが出来なかった。

シュート成功率とゴールキーパーの阻止率で韓国と顕著な差が出た試合であった。

②チャイニーズタイペイ戦

日本　28（15-15，13-16）31　チャイニーズタイペイ

初戦を落とした日本にとって、この試合は絶対に負けられない、負けてはいけない！の思いと強い気持ちで試合に臨んだ。

前半立ち上がりはお互いに得点を重ね互角に戦うが、22分過ぎに日本は5連続得点により14対11の3点差のリード。しかし、その後チャイニーズタイペイにも連続で得点を許し、15対15の同点で前半を終了する。

後半立ち上がり1点を先取するが、その後チャイニーズタイペイに4連続得点を許す。互角に得点をするが、常にチャイニーズタイペイが主導権を握り試合は進行する。結局日本は追い付くことが出来ず試合が終了した。

この時点で予選二次リーグへの進出の道が閉ざされた。

③インド戦

日本　47（21-6，26-6）12　インド

予選一次リーグ最終戦の対戦国はインドである。戦前の予想では、個人の技術、チームの戦術では日本の方がはるかに高いレベルにある相手である。

前半は立ち上がりからディフェンスが機能し、速攻やセットオフェンスによる連続得点により21対6で前半が終了する。

後半に入っても前半同様、速攻やセットオフェンスにより得点を重ね47対12で勝利する。

（2）順位決定戦（9～12位）

対戦国はモンゴル、香港、中国である。全試合に勝利して9位となった。

①順位決定戦：モンゴル戦

日本　50（20-3，30-3）6　モンゴル

実力の差が歴然とした試合であった。

前後半を通して速攻、セットオフェンスがしっかり機能しディフェンスにおいてもアグレッシブな動きで大勝した試合であった。

②順位決定戦：香港戦

日本　41（24-8，17-9）17　香港

若手の台頭が目立つ香港であるが、実力的には日本が有利である。

日本は前半の立ち上がりから連続速攻で得点を重ね、16分で14対2。その後はディフェンス、セットオフェンスもしっかり機能し24対8で前半を終了する。

後半に入っても日本が優位に試合を進め、41対17で勝利した。

③順位決定戦：中国戦

日本　32（20-17、12-14）31　中国

順位決定戦の最終対戦国は中国である。この試合に勝利すると9位が確定する。

前半の立ち上がり、日本はディフェンスのリズムの悪さから中国に4連続得点を許してしまう。立て直しを図りたい日本はメンバー交代やオフェンスシステムの変更等により、リズムを取戻し、16分に9対9の同点に追い付く。その後は一進一退の展開により20対17で日本が3点リードで前半を終了する。

後半に入り9分にはこの試合最大の7点差をつけるが、オフェンス・ディフェンスのミスが目立ち、連続得点を許すなど後半29分に同点とされる。しかし残り1分を切ってからセットオフェンスにより得点をし、32対31の1点差で辛くも勝利した。

4．総評と反省

「優勝」を目標に個人の技術やチームとしての戦術・戦略を準備して大会に臨んだが、予選一次リーグでの敗退により、9位の成績に終わった。同時に、予選二次リーグに進めなかった為、中東諸国と対戦する事もなく今大会が終了した。

特にチャイニーズタイペイに敗れた事が大きな反省である。

また、代表選手として戦う為の強靭な精神力の不足や、ディフェンスでのフィジカルの弱さも痛感した。さらに個人の技術的なミスや二次・三次速攻へのクロスによる展開が出来なかった事、調子の良し悪しの起伏が激しい事なども反省点として挙げられる。

アジアの勢力図は優勝したカタールを筆頭にバーレーン、イラン、クウェート、オマーン、サウジアラビア等の中東諸国と、準優勝の韓国、日本、中国、チャイニーズタイペイ等の極東アジア諸国の二地域の勢力に分けられるが、来秋に開催予定のアジア選手権は2016リオ五輪の出場権を争う大会である。

この出場権を得るためには、今大会での課題を明確にして克服し、今後の強化方策を構築することが重要である。

最後になりましたが、今大会に向け多くの皆様のご支援・ご協力、そしてご声援に感謝を申し上げます。

アジア競技大会を終えて

日本代表男子ハンドボール主将　岸川 英誉

第17回アジア競技大会が韓国の仁川で開催されました。この大会は、新体制となってからの目標であるアジア競技大会での優勝と、リオ五輪へ向けて弾みをつける事を目標に、「早くて（判断力）、速い（スピード）ハンドボール」を実践するため事前強化合宿で走り込みを行い、一試合走りぬける走力・体力の強化をしてこの大会へと臨みました。

結果としましては、目標を大きく下回る9位という非常に悔しい結果となりました。

今大会を振り返ってみると、積極的に自分達のDFが出来ている時は、速攻で簡単に得点し、ゲームの流れを掴む事が出来ていましたが、牽制やパスカットを狙った時の段差を攻められたときにフォローに行けず崩される場面が目立ちました。またDF全体が連動出来ずにノーマークチャンスを作られてしまったり、退場者が出てしまう時間帯が多くなり、なかなか試合のリズムを掴むことが出来ませんでした。コートに出ている選手が早く現状を理解し、この時間帯を短くする為にコート中で対応・修正出来るかが今後の課題となりました。この課題を克服するためにも60分間チーム全体がまとまり、誰が入っても自分の役割を全うし、意思統一する事が今まで以上に必要であると感じました。

OFでは、相手のプレスDFに対して崩す事が出来ずにセットOFでの得点が少なかった事や、ノーマークシュートを確実に決め切れなかった事が大きな課題となりました。また横のクロスばかりになり、下の広いスペースを有効的に使えずに攻め切ることが出来ず、ミスで終わってしまう場面も目立ちました。自分が決めに行くという強い気持ちと、組織的に動いて相手の弱点を的確につく冷静さをこれまで以上に磨いていく必要があると感じました。

今回のアジア大会での結果を真摯に受け止め、この敗戦を糧にするためにも反省点や課題を整理し、リオへ向かってチームワークと個々の強化に努めていきたいと思います。

最後に、リオ五輪出場のためにもチーム一丸となり頑張ってまいりますので、これからも温かいご声援宜しくお願い致します。

女　子

アジア競技大会を終えて

日本代表女子チーム監督　栗山 雅倫

4年に一度のアジアのビッグイベント、アジア競技大会が終わりました。今大会は、2015年度にいよいよ行われるオリンピック予選に向けて、チームとしての幅を広げる為にも、若手の活躍をおおいに期待しての現地入りを致しました。結果と致しましては、既に皆様方のご存知の通りではございますが、銀メダルを獲得致しました。これは3大会連続でのメダル獲得であり、アジアにおいてトップを見据えた位置を確保するという点で、大きな歩みとなりました。しかし一方では、決勝戦において、韓国にとっての万全のゲーム展開を許しての敗戦を喫し、課題をあらわにしたことも事実であり、成果と課題の交錯する大会となりました。沢山の皆様方からのご支援を頂戴しながら、最良の形ではご期待に応えることが出来ず、心苦しく思っております。

韓国の仁川市で開催された今大会は、韓国のハンドボールを取り巻く環境について、そのエネルギーをはっきりと感じるものでした。韓国ハンドボール界の並々ならぬ決意が、大会期間を通し、いたるところに表れていたかと思います。また、前大会の屈辱を晴らすべく、韓国代表チームも相当の強化期間を設けての大会入りとなっていたとのこともうかがっております。大会全体としても、ボランティアやそれぞれの催しものの規模も小さくなく、韓国の今大会への意気込みは、あらゆるところで感じることが出来ました。

さて、試合の経過について触れさせて頂きます。予選リーグでは、強豪のカザフスタン、進境著しいウズベキスタン、若手を中心に力をつけてきた香港、ニューフェースのモルジブとの対戦となりました。リーグでは最低限の課題を準決勝に駒を進めることの出来る2位とし、決勝進出を確実にす



写真提供：スポーツイベント社



写真提供：スポーツイベント社

るためにも1位通過を成し遂げたいところでありましたが、結果、カザフスタンを激戦の末に破り、1位で通過することができました。

・日本　37（18-2, 19-6）8　香港

若手の台頭が目立つ香港との対戦は、初戦の固さもありましたが、出場全選手が得点し、守ってはいずれのゴールキーパーも隙のないパフォーマンスを発揮することが出来、危なげのない勝利をおさめることが出来ました。

・日本　79（40-0, 39-0）0　モルジブ

モルジブは競技経験こそ少ないものの、高い身体能力を有する選手を有しており、今後を視野に入れても、早い段階でしっかりと差を示して勝ちたい相手であっただけに、無失点試合は価値ある勝利となったと捉えております。

・日本　51（26-12, 25-6）18　ウズベキスタン

前半、優位に試合を展開しながらも、高身長を活かした攻撃を武器とするウズベキスタンに対し12失点を喫し、後半は、特に失点を抑制し、狙いとする戦い方の強化を確認し、実践致しました。

・日本　23（12-8, 11-12）20　カザフスタン

前回の対戦でも、苦しみながらなんとか逆転勝利していたカザフスタンとの対戦、序盤から相手の良さを最小限に抑え、なんとか勝利したい対戦でした。序盤、一進一退のゲーム展開ながら、機動的な防御と相手の破壊力を封じた日本が徐々にペースを握りはじめました。後半に入ると、前半の優勢を活かしながら、徐々に日本がリードを広げ、途中、追いつめられる場面を抱えながらも、待望の予選リーグ1位通過を果たすことが出来ました。

メインラウンドに無事駒を進め、準決勝の中国戦に勝利し、決勝では韓国に敗戦し、銀メダルとなりました。

[準決勝] 日本　28（17-10, 11-15）25　中国

大会屈指の大型チームであり、世界選手権でも対戦した中国との準決勝。中国は、世界選手権の戦力から増強をはかり、実力派のベテランを戻して今大会に臨んでいました。結果と



3点共　写真提供：スポーツイベント社

して、防御が良く機能し、中国を振り切ることに成功し、2大会連続の大会銀メダル以上が、この時点で確定いたしました。

［決勝］日本　19（5-17，14-12）29　韓国

序盤から非常に厳しい試合展開での幕開けとなりました。これまで数度の対戦を繰り返し、世界トップゾーンに君臨し続ける韓国に、勝ち星こそ逃してきたものの、僅差での試合を繰り返してきただけに、予想外の展開に呑み込まれる格好となりました。会場の雰囲気も、これまで世界各地で経験したすべてを遥かに凌ぐアウェームードとなり、異様な雰囲気のまま試合が進んでいきました。

前半、きっかけがつかめないまま大量リードを許しましたが、後半になり、相手の交代にもつけ込み、徐々に思い切りの良い試合展開となっていきました。しかしながら、前半につけられた大差は埋めることが出来ず、19対29で試合を終え、銀メダル獲得で大会を締めくくりました。

いよいよオリンピック予選の開催年となります。今回改めて課題となった点を精査し、悲願のオリンピック出場に向け、チーム一同すべてを尽くしてまいります。今後とも、何卒よろしくお願い致します。

アジア競技大会を振り返って

日本代表女子　石野 実加子

日頃より、多大なご支援を頂戴し、深く感謝申し上げます。今回のアジア競技大会においても、沢山の皆様方に会場まで足を運んで頂き、そして沢山のメッセージを頂戴し、大変心強く感じながら、すべての試合に向かうことが出来ました。本当に有り難うございました。

さて、大会の結果は銀メダル獲得となり、嬉しさもありましたが、韓国に手痛い敗戦を喫し、悔しさも味わいました。試合から得られる課題を一つ一つ明らかにし、今後の活動に十分活かしていきたいと思っております。

現在の日本代表女子チームでは、機動的なハンドボールを武器とし、アジアや世界の強豪相手に戦い抜くというコンセプトを持っております。特に防御においては、機動性をフルに活用したスタイルをとっており、その機動的防御が機能している時は、多くの速攻につながるなど、試合全体のリズムを掴むことが出来ていると感じています。今大会でも、決勝進出に至るまでは、自分たちの描いている試合展開が発揮出来たと感じています。

しかし、決勝戦の対韓国代表チームのゲームでは、アウェイの雰囲気にのまれる部分もあり、自分たちが実践したい防御態勢を整える前に、攻め込まれた感じが強く、リズムに乗ることが出来なかったと感じています。結果、要所で相手に先手を取られる展開となってしまいました。この試合を通して、相手にどんな準備をされようとも、それらを自分たちがさらに先手を取るような戦いを、今後はしっかりと実現していきたいと、心底感じています。

今回は準優勝に終わりましたが、あくまでリオデジャネイロオリンピックの切符を獲得することが、チームの目標です。この大会で得た成果と課題をしっかりと捉え、韓国に勝って悲願のオリンピック出場を成し遂げたいと思います。今後とも、よろしくお願い致します。



写真提供：スポーツイベント社

第69回 国民体育大会 ハンドボール競技

開催期日：平成26年10月16日～20日
会　　場：佐世保市東部スポーツ広場体育館
長崎県立佐世保西高等学校体育館
海上自衛隊平瀬体育館
海上自衛隊佐世保教育隊体育館
佐世保市体育文化館

最終順位

種別	1位	2位	3位	4位	5位
成年男子	埼玉県	愛知県	宮城県	広島県	佐賀県・沖縄県・岩手県・千葉県
成年女子	石川県	熊本県	鹿児島県	広島県	東京都・大阪府・岩手県・茨城県
少年男子	沖縄県	神奈川県	岡山県	宮崎県	千葉県・長崎県・福井県・京都府
少年女子	愛知県	三重県	東京都	兵庫県	山口県・長崎県・宮崎県・富山県



総　評

長崎県ハンドボール協会理事長　**児玉 浩三郎**

10月15日のオープニングセレモニーから10月20日まで6日間の日程で実施した第69回国民体育大会「長崎がんばらんば国体ハンドボール競技会」。台風19号の影響で競技会場と練習会場等の設営計画の一部変更を余儀なくされましたが、台風通過後は秋晴れが続き、無事に競技日程を消化することができました。

2度目の地元開催となった本県は、競技別の天皇杯や皇后杯の表彰こそ逃しましたが、少年男女が地元の大声援を受けて、強化の成果を発揮しベスト8に入ることができました。成年男女は初戦敗退となりましたが、長年の強化の成果を存分に発揮しました。監督・コーチ・選手・トレーナー・裏方として支えた人たち、会場で声援を送り続けた県民の皆様らと一丸となって戦った「チーム長崎」に心から敬意を表します。郷土のために全力を尽くし、懸命に競技した選手たちの姿は、多くの人々の心に深く刻まれ、必ずや本県ハンドボール史に残る戦いとして、後世に語り継がれることと思います。

また今回は、佐世保市体育文化館に三笠宮彬子女王殿下をお迎えすることができました。関係者や観客の皆様には、警備の関係で不自由をおかけしましたが、（公財）日本ハンドボール協会市原則之副会長のご説明のもと、女王殿下にハンドボール競技を楽しんでいただきました。

運営面では、平日開催の観客動員を懸念していましたが、佐世保市実行委員会の配慮で行った学校応援で、佐世保市内の小・中学生が各チームに大声援を送り、各選手たちの力を引き出してくれました。土日が重なった競技会終盤は、どの会場も大勢の観客が詰め掛け、選手たちを後押ししました。特に、国体開催前のアジア競技会で活躍した日本代表選手らが多数参加した成年種別の会場には、トップアスリートのプレーを見ようと、観客が押し寄せ、立ち見が出るほどの盛況となりました。

成年男子では、埼玉県（大崎電気）が、7月の全日本社会人ハンドボール選手権大会のリベンジを果たして、愛知県（トヨタ車体）を撃破し、国体3年連続優勝を飾りました。3位決定戦では、地元長崎県出身者が多く在籍する宮城県（トヨタ自動車東日本）が、広島県（湧永製薬）を破って、初の3位入賞を果たしました。

成年女子では、石川県（北國銀行）が、7月の全日本社会人ハンドボール選手権大会に続き優勝を飾ると同時に国体2







連覇を達成することができ､決勝で敗れた熊本県（オムロン）は、２年連続の国体準優勝となりました。３位決定戦では、鹿児島県（ソニーセミコンダクタ）が、広島県（広島メイプルレッズ）を破り３位を確保しました。

少年男子では、沖縄県（興南高）が、「春の選抜・夏のインターハイ・秋の国体」の３冠を達成しました。３冠阻止を狙った神奈川県（横浜創学館高・法政大学第二高）との決勝戦は、レベルの高い熱戦となり、この試合はNHKでテレビ中継が行われ、全国のハンドボールファンもテレビの前で興奮しながら観戦を楽しむことができたことと思います。３位決定戦は、2回戦で地元長崎県を僅差で破り、勢いに乗った岡山県が宮崎県に勝利しました。

少年女子では、春の選抜・夏のインターハイで優勝した佼成学園女子高を主体とする東京都の３冠を名経大市邨高・大同大学大同高・愛知商業高の３校選抜による愛知県が準決勝で阻止し、その勢いのまま決勝では三重県を破り、第65回千葉国体以来の優勝を果たしました。３位決定戦は、東京都が兵庫県を破り、成年女子のベスト８入賞と合わせての皇后杯獲得に大きく貢献しました。

今回の国体は、アジア競技会や長崎くんち等の各行事の関係で、大会日程が10月中旬から下旬にかけての開催となりました。秋の行楽や修学旅行シーズンと重なり、佐世保市内でのホテル・宿舎の確保が困難な状況にも関わらず、全国各地から来県された各チーム関係者の皆様や各会場に来場されて熱い声援を送っていただいた各チームのサポーターの皆様には、たいへん感謝申し上げます。

最後になりましたが、（公財）日本ハンドボール協会役員の皆様をはじめ、台風19号通過時の会場設営から、連日円滑な運営を支えていただいた佐世保市実行委員会・佐世保市民ボランティアの方々･競技補助員の高校生など､多くの方々にお礼申し上げます。

私たちは､45年ぶりの地元国体を通して､スポーツの魅力、スポーツのもつ力を再認識し、「ふるさと」の良さを再発見することができました。そして、行政と競技団体が一つになれば､これだけの大きな大会を開催できることも学びました。また、大会関係者にお寄せいただいた運営に関する「皆様の貴重な声」をいかし、長崎県民･佐世保市民･県内ハンドボール関係者らの『おもてなしの心』と『競技会運営力』の向上にこれからも努めてまいります。ほんのひととき、開催成功の喜びをかみしめ、次への一歩を踏み出していこうと思います。

成年男子優勝　埼 玉 県

埼玉県成年男子監督　岩本 真典（大崎電気ハンドボール部）

第69回国民体育大会「長崎がんばらんば国体」を振り返って

この度、第69回国民体育大会「長崎がんばらんば国体」成年男子の部において、私たち大崎電気は埼玉県代表として3年連続20回目の優勝を果たすことが出来ました。これも偏に日頃から大崎電気ハンドボール部を支えてくださっている渡邊オーナーをはじめ社員の皆様、そして埼玉県体育協会、埼玉県ハンドボール協会関係者の方々のご支援、ご声援あってこその結果だと思っております。また大会開催にあたりご尽力いただいた長崎県ハンドボール協会をはじめ日本ハンドボール協会、また地元長崎県佐世保市のボランティアの皆様、成年男子会場の佐世保市実行委員会、ならびに関係各位の皆様に改めて、心より厚く御礼申し上げます。そして何より、



昨年の全日本総合大会より遠ざかっていた優勝という文字に飢え、日々のトレーニングを行っていた選手の努力の賜物だと思っています。

国民体育大会は12名の大会及びベンチ登録のみ。（国体以外は16名ベンチ登録）大会が始まれば怪我をしても選手の入れ替えが出来ないという苦しい中、決勝戦までの4試合、試合に出場している選手は勿論、登録を外れた選手もチームの為に最善を尽くし、19名の選手が役割を果たしてくれたことに感謝しております。

選手には日頃から FOR THE TEAM! THINKING HANDBALL! というチームスローガンの基、指導しております。今大会のスローガン「君の夢　はばたけ今　ながさきから」にもあるようチーム全員が目標に向かって羽ばたいてくれました。

今大会は埼玉県代表として3年連続の優勝でしたが、大崎電気としては今シーズン、スケジュール的にチームトレーニングが少ない中での結果であり、次のタイトルに向けこの優勝をスタートに継続して優勝できるよう、これまで以上の努力を重ねてこれからも大会ごとに成長し、国内で継続して勝てるチーム、そして世界に通用するチームを目指して日々、精進していきます。

今後ともご支援、ご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

成年女子優勝　石 川 県

石川県成年女子　横嶋 かおる（北國銀行ハンドボール部主将）

始めに第69回国民体育大会の開催にあたり、ご尽力いただきました長崎県国民体育大会実行委員会並びに日本ハンドボール協会など多くの関係者の皆様方に心より感謝申し上げます。この度、長崎がんばらんば国体において2連覇を達成することができました。これも偏に日頃よりご支援・ご声援を頂いております石川県体育協会並びに石川県ハンドボール協会、サポーターの皆様方、ご家族の皆様方、そして、チーム強化に強力なバックアップをして頂いております深山相談役、安宅頭取をはじめとします役員・行員の皆様方のおかげだと思っております。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

今大会では、アジア大会後ということもあり、なかなか全員揃っての練習は出来ていなかったので不安を感じての試合でもありました。私達は絶対的なエースがいないので、一人一人が役割を理解して、チーム全員で戦うハンドボールを目標としています。初戦は硬さもみられましたが、全員で戦うハンドボールで2連覇を達成することができました。

全日本社会人選手権大会、国民体育大会と2冠を取ることができ嬉しく思いますが、まだまだ経験未熟な選手が多いチームなので、波のある試合展開であったり、課題もたくさんあります。このあと続く全日本総合・リーグに向けて気を引き締めて戦っていきたいと思います。そして応援してくださる皆様に恩返しが出来るように頑張りたいと思います。北國銀行をはじめ協会、サポーターの皆様にはこれまでと変わらぬご支援、ご声援をよろしくお願い致します。



成年男子優勝の埼玉県







成年女子優勝の石川県

少年男子優勝　沖 縄 県

沖縄県少年男子　下地 利輝（興南高等学校ハンドボール部主将）

3 冠を達成して

高校入学からの目標である「3 冠」に向けてがむしゃらに練習に励んできた 3 年間が終わりを告げました。去年は全国高校総体で 4 年ぶりの優勝を飾り、国体でも優勝を狙いましたが結果はベスト 8 と悔しさの残る中、自分達の時代が始まりました。

最初の全国大会である春の選抜大会では、緊張よりも楽しみの方が大きく、自分達のプレーがどれくらい通用するのかを確認することができ、3 冠に向けての 1 つ目のタイトルを 9 年ぶりに獲ることができました。

全国高校総体に向けての練習では、夏に向けて体が出来上がり、更に強くなる県外チームに負けない為に走り込みが増え、練習も厳しさを増しました。その苦しい走り込みをチーム全員で乗り切ったことで一人一人が自信をつけ、最高のコンディションで全国高校総体に照準を合わせることができました。全国高校総体は 2 連覇、そして春・夏連覇がかかる大一番となりました。自分自身は親や兄が応援に駆けつけてくれ、また他のメンバーの家族や興南高校ハンドボール部 OB、学校関係者の方々も応援しに来ており、改めて多くの方々に支えられていることを感じることができました。決勝では感謝の気持ちを忘れずにプレーしようとメンバーと話し合い、自分達の力を十二分に発揮して 2 連覇と春・夏連覇を達成することができました。

春に続き 2 つ目のタイトルを獲得し、残すは国民体育大会優勝のタイトルのみとなりました。

全国高校総体が終わり国体までの間、気持ちを保つことが難しく練習に身が入らない時期が続きました。その時に黒島監督に呼ばれ「きついと思うがあとひとつ悔いが残らないように頑張れ」と声をかけられました。私はその言葉でキャプテンとしてもう一度チーム一丸となって「3 冠」を目指そうと気持ちを切り替えることができました。

県民の期待、そして大きなプレッシャーの中で挑んだ長崎国体は、初戦から動きが悪く思うようにいかない展開が続きましたが、2 回戦の兵庫県、3 回戦の千葉県、準決勝の岡山県に勝利し決勝戦の舞台に駒を進めることができました。泣いても笑ってもこのメンバーで試合するのも最後、前日のミーティングでは皆の想いを話し合いました。神奈川県との決勝戦では、お互いの意地のぶつかり合いとなり最後まで白熱した試合となりました。後半 20 分過ぎまで一進一退の攻防が続きましたが、今までやってきた自分達のプレーをチーム一丸となって貫いた結果、最後の最後で抜け出すことができました。ずっと目標にしてきた「3 冠」を 9 年ぶりに達成することができた瞬間にこれまでの辛かったことや苦しかったこと、嬉しかったこと楽しかったこと全ての想いが込み上げてきました。興南高校に進学して黒島監督の下でハンドボールができたこと、3 年生全員で最後まで戦えたことが本当に良かったと思いました。最高の舞台で最高のメンバーと最高のプレーができことは一生の財産です。そして、これまでずっと支えてくれた多くの方々や、練習相手になってくれた琉球コラソンや OB の方々、応援してくださった全ての皆様に感謝の気持ちで一杯です。高校 3 冠という本当に貴重な経験をすることができ本当に幸せです。

今後はそれぞれ別の大学に進学すると思いますが、これからもお互いに切磋琢磨しながら成長していきたいです。

少年女子優勝　愛 知 県

愛知県少年女子監督　浅野 清隆

はじめに､東日本大震災復興支援第 69 回国民体育大会「長崎がんばらんば国体」を開催するにあたり、ご尽力いただいた長崎県ハンドボール協会をはじめ日本ハンドボール協会、佐世保市実行委員、ならびに多くの関係者の皆様に、心から感謝申し上げます。

この度、第 69 回国民体育大会において、4 年ぶりに優勝することができ､大変嬉しく思っています。これもひとえに、ご支援ご協力をいただいた愛知県ハンドボール協会関係者の方々、学校関係者の方々、保護者の方々、愛知県の先生方のおかげであると深く感謝しております。

今年のチームは全国選抜大会で準優勝した愛知商業高校 6 名、同ベスト 8 の大同高校 1 名、インターハイベスト 8 の名経大市邨高校 5 名の 3 校からの選抜チームであり、 4 年前に優勝した千葉国体の時のチームよりも経験値という部分では高い選手が揃っていたこともあり、結成時から優勝を視野に入れ、スタートしました。



少年男子優勝の沖縄県





少年女子優勝の愛知県

プレースタイルや戦術等まったく違うチームの選手たちを、短期間でひとつのチームにするために、千葉国体時と同様に平日の練習で基本的な約束事を確認し、三重県、香川県、兵庫県の少年女子チームや、HC名古屋、中京大学、大同大学等との練習ゲームの中で再確認をしていくということを繰り返しました。そして大会には戦術等だけでなく、チームとしてのムードも良く、一体感も強まり、かなりの手応えを感じて長崎入りすることができました。試合では一回戦の埼玉県、二回戦の地元長崎県とも前半は思うようにはいきませんでしたが、後半は修正し点差をつけて勝利することができ、試合が進むにつれて、選手の自信や一体感も高まっていきました。準決勝の春夏二冠の佼成女子高校が主体の東京都との試合においてもそれは変わらず、後半に自分たちの持ち味であるディフェンスから速攻で点差を広げ勝利することができました。

そして決勝の三重県との試合では隣県であり、監督とは旧知の仲であることから隔週で練習ゲームをしてお互いに手の内がわかっていることもあり、前半から優位に試合を進めることができ、後半は試合に勝利する喜びとともにもっとこのチームでハンドボールをしていたいという気持ちも湧き上がってきました。その気持ちは選手も同様だったと思います。

最後になりますが、全員がひとつの方向を向き、協力してくれた原田、寺脇両コーチ、原野トレーナーと選手皆に感謝をしたいと思います。本当にありがとう。

戦 評

少年男子

【決勝】

沖縄 36（16－16, 20－17）33 神奈川

少年男子決勝、神奈川のスローオフでスタート。先制したのは神奈川。3番庄山のミドルで先制。その後も6番川元のポストや10番宮崎のカットイン、11番門間の速攻で主導権をつかむ。対する沖縄は5番田里のロングや6番與那嶺の速攻、7番下地のロングで巻き返しを図るが、神奈川の強力な攻撃に、沖縄DFが対応できない。開始11分6対10神奈川リードで、沖縄がタイムアウトを申請。その直後から沖縄の3－3DFが機能し、3番伊舎堂のミドルや2番川上のポスト、10番森田のサイドで同点に追いつく。神奈川は2番村田の速攻などで引き離しにかかるが、退場者が出て流れに乗れない。12対12と同点のまま終盤に突入。終盤も激しい攻防が続くが、神奈川1番飯村、沖縄12番宮國の両キーパーが好セーブを連発。互いにペースがつかめず、16対16の同点で前半を折り返す。

後半は、沖縄の2番川上がポストで先制すると、立て続けにカットインが決まり一歩抜け出す。しかし、神奈川も7番橋本のサイドが決まると、3番庄山にボールを集め応戦。後半12分24対24の同点、緊迫した展開が続く。神奈川は左45度の前を出す変則5－1にシステムを変更し、8番福本のミドルなどで流れをつかもうとする。しかし、沖縄も譲らない。28対28の同点のまま終盤に突入。終盤は神奈川が退場者を出したチャンスを逃さず、33対31で沖縄が一歩リード。さらに28分神奈川に退場者が出て、最後は36対33で沖縄が競り勝ち、優勝となった。

少年女子

【決勝】

愛知 33（21－6, 12－12）18 三重

開始3分は両者とも得点を許さず、引き締まった立ち上がりとなった。愛知は8番村松がミドルシュートを決め先制すると一気に6連続得点。6番木戸の豪快に倒れこむサイドシュートも連続で決まった。三重は5番山本を攻撃の柱として攻めるが、愛知DFの強いプレッシャーの前に、思うようにシュートを打てない。逆にDF面では退場者を出すなど、点差は離れる一方である。前半を終わって15点差がついた。

後半開始早々、愛知に退場者が出る。巻き返しを図りたい三重は2番服部のキレのあるフェイントから果敢に攻撃をしかけるも、愛知1番神谷の好セーブに阻まれ波に乗り切れない。三重はしつこく守り、いい形で攻撃につなげるもののパスミスやキックボールなどで流れを引き寄せることができない。愛知は9番熊崎、3番宮崎らがカットイン、ミドルシュート、逆サイドへのパスで攻撃を組立て、試合を優位に運ぶ。終わってみると、前半の点差が詰められないまま試合終了となった。

将来のハンドボール界を背負う若い選手たちの今後の活躍に期待したい。

成年男子

【決勝】

埼玉 32（17－13, 15－8）21 愛知

決勝戦は、愛知のスローオフでスタートした。愛知が最初のプレイで3番石戸のミドルを決めると、対する埼玉も、すぐさま5番岩永がミドルで取り返す。そのまま埼玉は、4番信太のミドルや10番小室のポストシュートで得点を重ね流れに乗る。しかし、愛知もすぐに5番高智のミドルや4番渡部のサイドシュートで反撃。互いにスピーディーな攻撃で相手の隙を見逃さない。均衡した試合が動いたのは開始17分。愛知が退場者を出すと、埼玉は6番豊田のカットインや3番小澤の速攻で得点する。その後も、4番信太や7番宮﨑のミドルなどで徐々に相手を引き離し、主導権を握る。愛知も2番門山のロングや終了間際の7番藤本の速攻など、気迫のこもったプレイで反撃するが、点差を縮めることができず、17対13の埼玉リードで前半を折り返す。

後半は、埼玉2番元木のミドルの得点から始まり一気に5得点。さらに点差を広げる。愛知も、4番渡部や11番崎前のサイドからの得点で巻き返しを図るが、埼玉の堅い守りに阻まれ、得点できない苦しい時間が続く。その間も埼玉は、7番宮﨑のミドルや9番森のポストシュートなど、連携のとれたセットプレイで、確実に点を重ねていき、23分には29対19で10点の差をつけた。終盤も埼玉流れは変わらず、32対21で埼玉県が、第69回国民体育大会の優勝を飾った。

成年女子

【決勝】

石川 18（8－7, 10－9）16 熊本

決勝戦は石川県対熊本県、日本リーグ決勝戦のような顔合わせとなった。まずは、石川が3番鰍場、5番横嶋のシュートで流れを作る。しかし、熊本のエース6番東濱の突き刺すようなシュートで流れを断ち切り、2番澤田の速攻でスコアをドローに戻した。しかし、走る石川。1番寺田の好セーブから12番河田らの速攻で5点のリードとした。意地の熊本。4番吉田のロングシュートで連続得点、5番稲葉の速攻で連続得点し、1点差まで追い上げた。その後、両チームの守りが冴え、得点が出ないまま前半終了。

後半の立ち上がり、前半に引き続き両チームの守りは堅い。開始3分半のこう着状態を破ったのは熊本。2番澤田のサイドシュートで同点に追いつく。しかし、熊本6番東濱の退場などで数的有利となった石川が5番横嶋のカットインシュートなどで、リードを5点とした。熊本も7番勝連の技ありサイドシュートや、9番川俣の力強いポストシュートで1点差まで追いつく。ラスト30秒、熊本はマンツーマンディフェンスで勝負を仕掛けるも、ラスト5秒にペナルティーシュートを石川に与え、それを石川5番横嶋が冷静にゴールへ沈め試合終了。決勝戦も日本トップレベルの試合で会場が沸いた。

スポ安(あん)くん

いざというときしっかりサポート

心配しなくて 大丈夫

頼りになります！

今日はサッカーの試合！

いいぞ！
誠！！

ワー
ワー

ド
!!!!!
ガ

ドサッ
ピピーッ
ううっ！



怪我も心配だけれど、
入院費用も心配だわ・・・

かんとく

お母さん大丈夫ですよ！
こんな時のために
保険に入ってますから

2ヶ月後・・・



あの時は
大変お世話になりました

「スポーツ安全保険」に
入っておいてよかったです！

傷害保険 **賠償責任保険** **突然死葬祭費用保険**

スポーツ安全保険®

5
5名以上の団体でご加入ください。

対象となる事故 団体活動中の事故／往復中の事故

保険期間 平成26 年4月1日午前0時から平成27 年3月31日午後12時まで
（申込受付は平成26 年3月から）

加入区分・掛金・補償額

団体活動を行う **5**名以上の方々でご加入ください。加入区分は加入者ごとにご選択ください。

加入対象者		補償対象となる団体活動	加入区分	年間掛金（1人当たり）	傷害保険金額 死亡	傷害保険金額 後遺障害（最高）	傷害保険金額 入院（日額）	傷害保険金額 通院（日額）	賠償責任保険 支払限度額（免責金額なし）	突然死葬祭費用保険 支払限度額
子ども〔中学生以下 特別支援学校高等部の生徒を含む。〕		スポーツ活動 文化・ボランティア・地域活動	A1	800円	2,000万円	3,000万円	4,000円	1,500円	身体・財物賠償 合算1事故5億円 ただし、身体賠償は1人1億円	突然死（急性心不全 脳内出血など） 葬祭費用 180万円
		上記団体活動に加え、個人活動も対象 AW区分の特徴：個人活動・個人練習なども補償の対象となります。 上段：団体活動中およびその往復中の補償額 下段：上記以外（個人活動など）の補償額	AW	1,450円	2,100万円	3,150万円	5,000円	2,000円	身体・財物賠償 合算1事故5億500万円 ただし、身体賠償は1人1億500万円	
					100万円	150万円	1,000円	500円	身体・財物賠償 合算1事故500万円	対象外
大人	高校生以上 65歳以上の方も加入できます。	文化・ボランティア・地域活動、団体員の送迎、応援、準備、片付け ※スポーツ活動を行う場合は対象となりません。	A2	800円	2,000万円	3,000万円	4,000円	1,500円	身体・財物賠償 合算 1事故5億円 ただし、身体賠償は1人1億円 ⚠ 自動車事故によって賠償責任を負った場合は、補償の対象となりません。	突然死（急性心不全 脳内出血など） 葬祭費用 180 万円
		スポーツ活動 スポーツ活動の指導・審判	C	1,850円	2,000万円	3,000万円	4,000円	1,500円		
		子どもへのスポーツ活動の指導・審判 ※C区分でも加入可	AC	1,300円	1,000万円	1,500万円	2,500円	1,000円		
	65歳以上	スポーツ活動 ※C 区分でも加入可　※スポーツ活動を行わない場合は A2 区分	B	1,000円	600万円	900万円	1,800円	1,000円		
全年齢		危険度の高いスポーツ活動	D	11,000円	500万円	750万円	1,800円	1,000円		

※同一団体で1口しか加入できません。中途加入する場合、中途脱退する場合も年間掛金を適用します。加入後の加入者の入換え、加入区分の変更はできません。※危険度の高いスポーツ活動はD区分以外では補償されません。

スポーツ安全協会 検索
インターネットからも加入受付を行っております。詳しくは、ホームページをご覧ください。

公益財団法人 スポーツ安全協会

〒105-0003 東京都港区西新橋1-6-11 西新橋光和ビル8階 TEL03-5510-0022

保険の詳しい内容、資料の請求は、ホームページをご覧ください。

http://www.sportsanzen.org

●資料請求は、インターネットより受付けております。

この広告はスポーツ安全保険（スポーツ安全保険特約書に基づく傷害保険（スポーツ安全協会傷害保険特約・スポーツ安全協会傷害保険特約（学校管理下外担保）・突然死葬祭費用担保特約付帯普通傷害保険）、賠償責任保険（スポーツ安全協会賠償責任保険特約等付帯施設賠償責任保険及びスポーツ安全協会傷害保険特約（学校管理下外担保）付帯普通傷害保険賠償責任担保条項））の概要についてご紹介したものです。ご加入の際には、必ず「スポーツ安全保険のあらまし」および「重要事項説明書」をよくお読みください。詳細は保険約款および特約書によりますが、ご不明の点がございましたら（公財）スポーツ安全協会または 東京海上日動火災保険（株）までお問い合わせください。

〈引受幹事保険会社〉
東京海上日動火災保険株式会社（担当課）公務第２部公務第１課
TEL 03-3515-4133（平日9:00～17:00）
〈共同引受保険会社（平成26年4月予定）〉
あいおいニッセイ同和　共栄火災　損保ジャパン　大同火災　東京海上日動　日新火災　日本興亜損保　富士火災　三井住友海上

平成25年12月作成　0792-1304-B13259-201312
1701-1304-B13247-201311

第39回（2014～15シーズン）日本

平成 26 年 10 月 14 日（火）、岸記念体育会館にて第 39 回日本ハンドボールリーグ開幕記者会見が行われた。多田博・日本ハンドボールリーグ機構会長より挨拶があり、家永昌樹・日本ハンドボールリーグ機構 GM より第 39 回実施要綱が発表された。その後、男子・女子チーム監督の紹介と、それぞれの監督からスローガン・抱負が発表された。

男子
9チーム



大同特殊鋼 Phenix
監督　末松　誠



トヨタ車体 BRAVE KINGS
監督　酒巻清治



大崎電気 OSAKI OSOL
監督　岩本真典



湧永製薬 WAKUNAGA LEOLIC
監督　中山　剛



琉球コラソン
監督　東長濱秀吉



トヨタ自動車東日本 REGAROSSO
監督　中川善雄



トヨタ紡織九州 Red Tornado
監督　石黒将之



豊田合成 Blue Falcon
監督　畠中益喜



北陸電力ブルーサンダー
監督　前田亮介

女子
7チーム



オムロン ピンディーズ
ヘッドコーチ　黄　慶泳


北國銀行 Honey Bee
監督　荷川取義浩



広島メイプルレッズ
監督　呉　成玉



ソニーセミコンダクタ BLUE SAKUYA
監督　小藪憲次



三重バイオレットアイリス
監督　池本　聡



飛騨高山ブラックブルズ岐阜
監督　山川由加



ＨＣ名古屋
GKコーチ　近藤澄江


日本ハンドボールリーグ機構 GM
家永昌樹


日本ハンドボールリーグ機構会長
多田　博

ハンドボールリーグ開幕記者発表

第39回日本ハンドボールリーグ　開幕記者発表出席者

	チーム名	役職	使命	スローガン
男子	大同特殊鋼　Phenix	監督	末松　誠	挑戦
	トヨタ車体　BRAVE KINGS	監督	酒巻　清治	臥薪嘗胆・百忍千鍛をもって事を成す
	大崎電気　OSAKI OSOL	監督	岩本　真典	CONTINUE ～継続～
	湧永製薬　WAKUNAGA LEOLIC	監督	中山　剛	Endless Challenge
	琉球コラソン	監督	東長濱　秀吉	NEXT ONE
	トヨタ自動車東日本　REGAROSSO	監督	中川　善雄	ONE TMEJ ONE REGAROSSO
	トヨタ紡織九州　Red Tornado	監督	石黒　将之	新
	豊田合成　Blue Falcon	監督	畠中　益喜	CATCH THE DREAM
	北陸電力　ブルーサンダー	監督	前田　亮介	不撓不屈
女子	オムロン　ピンディーズ	ヘッドコーチ	黄　慶泳	Change of mind
	北國銀行　Honey Bee	監督	荷川取　義浩	ONE FOR ALL　ALL FOR ONE
	広島メイプルレッズ	監督	呉　成玉	絆・前進
	ソニーセミコンダクタ　BLUE SAKUYA	監督	小藪　憲次	型を守って、型を打ち破る
	三重バイオレットアイリス	監督	池本　聡	全員ハンドボール
	飛騨高山ブラックブルズ岐阜	監督	山川　由加	Keep on dreaming（夢を持ち続けて）
	HC 名古屋	GK コーチ	近藤　澄江	奪取



男子チーム



女子チーム

第39回日本ハンドボールリーグ　日程変更について

第15回女子アジア選手権大会が、2015年3月14日～22日にインドネシア・ジャカルタで開催されることに変更された旨が、8月下旬にアジアハンドボール連盟から発表されました。

これに伴い、日本代表選手の多くが在籍している日本ハンドボールリーグ機構では、代表選手活動を優先するために2月28日～3月15日に予定していた女子レギュラーシーズン12試合及びプレーオフの日程と、男子2試合の試合時間を下記のごとく変更することと致しました。公式プログラムが完成した後での変更となり、皆様にご迷惑をお掛けすることになりますが、ご了承のほどお願い申し上げます。

2014年10月　　日本ハンドボールリーグ機構

〈変更内容〉

旧日程										新日程
週	月日	開催地	会　場	対戦カード						
6	2014年 11月29日(土)	福井県	北陸電力福井体育館フレア	男子	14:00	北陸電力	vs	トヨタ自動車東日本	→	15:00～に時間変更
16	2015年 2月28日(土)	広島県	東区スポーツセンター	男子	13:00	湧永製薬	vs	豊田合成	→	(男子試合は変更無し)
				女子	15:00	広島メイプルレッズ	vs	ソニーセミコンダクタ	→	12/14 (日) 広島大会
	3月1日(日)	岐阜県	飛騨高山ビッグアリーナ	女子	13:00	飛騨高山ブラックブルズ岐阜	vs	HC名古屋	→	12/13 (土) 愛知大会
		熊本県	山鹿市鹿央体育館	女子	14:00	オムロン	vs	三重バイオレットアイリス	→	12/14 (日) 熊本大会
17	3月7日(土)	熊本県	人吉スポーツパレス	女子	12:00	広島メイプルレッズ	vs	三重バイオレットアイリス	→	11/22 (土) 広島大会 (男子試合は時間変更)
				女子	14:00	オムロン	vs	HC名古屋	→	12/6 (土) 熊本大会
				男子	16:00	大崎電気	vs	トヨタ車体	→	14:00～に時間変更
		鹿児島県	霧島市国分体育館	女子	15:00	ソニーセミコンダクタ	vs	北國銀行	→	11/22 (土) 広島大会
	3月8日(日)	佐賀県	神埼中央公園体育館	女子	13:00	三重バイオレットアイリス	vs	飛騨高山ブラックブルズ岐阜	→	11/29 (土) 福井大会
				男子	15:00	トヨタ紡織九州	vs	湧永製薬	→	(男子試合は変更無し)
	3月8日(日)	鹿児島県	霧島市国分体育館	女子	12:00	北國銀行	vs	広島メイプルレッズ	→	11/29 (土) 石川大会
				女子	14:15	ソニーセミコンダクタ	vs	オムロン	→	12/7 (日) 熊本大会
18	3月14日(土)	石川県	小松総合体育館	女子	13:00	北國銀行	vs	三重バイオレットアイリス	→	11/24 (月) 石川大会
		岐阜県	ヒマラヤアリーナ	女子	13:00	飛騨高山ブラックブルズ岐阜	vs	オムロン	→	11/23 (日) 岐阜大会
	3月15日(日)	愛知県	ブラザー体育館	女子	14:00	HC名古屋	vs	広島メイプルレッズ	→	11/24 (月) 広島大会

《女子プレーオフ》

2015年3月21日（土）・22日（日）　東京都・駒沢体育館→**2月28日（土）・3月1日（日）　石川県・小松総合体育館に変更**

改訂版 第39回日本ハンドボールリーグ日程表

週	月日	開催地都道府県	会場	男子				女子			
				時間	組合せ			時間	組合せ		
1	2014年 10月25日（土）	岩手県	岩手県営体育館	14:00	大崎電気	vs	琉球コラソン	12:00	北國銀行	vs	三重バイオレットアイリス
		愛知県	東海市民体育館	14:00	大同特殊鋼	vs	豊田合成				
			知立市福祉体育館	13:30	トヨタ車体	vs	トヨタ自動車東日本				
		広島県	佐伯区スポーツセンター					14:00	広島メイプルレッズ	vs	ＨＣ名古屋
		佐賀県	神埼中央公園体育館	15:00	トヨタ紡織九州	vs	北陸電力				
		熊本県	山鹿市総合体育館					14:00	オムロン	vs	飛騨高山ブラックブルズ岐阜
2	11月1日（土）	愛知県	ブラザー体育館					13:00	ソニーセミコンダクタ	vs	三重バイオレットアイリス
								15:15	ＨＣ名古屋	vs	北國銀行
		岐阜県	飛騨高山ビッグアリーナ	15:30	大崎電気	vs	大同特殊鋼	13:00	飛騨高山ブラックブルズ岐阜	vs	広島メイプルレッズ
		広島県	中区スポーツセンター	12:00	トヨタ紡織九州	vs	トヨタ車体				
				14:00	トヨタ自動車東日本	vs	豊田合成				
				16:00	湧永製薬	vs	琉球コラソン				
	11月2日（日）	愛知県	ブラザー体育館					13:00	ＨＣ名古屋	vs	三重バイオレットアイリス
		岐阜県	飛騨高山ビッグアリーナ					13:00	飛騨高山ブラックブルズ岐阜	vs	ソニーセミコンダクタ
		広島県	中区スポーツセンター	13:00	琉球コラソン	vs	トヨタ紡織九州				
				15:00	湧永製薬	vs	トヨタ車体				
	11月3日（月）	石川県	小松総合体育館					13:00	北國銀行	vs	オムロン
		香川県	高松市香川総合体育館	12:00	大同特殊鋼	vs	北陸電力				
				14:30	トヨタ自動車東日本	vs	大崎電気				
3	11月8日（土）	佐賀県	神埼中央公園体育館	13:00	大崎電気	vs	豊田合成				
				15:00	トヨタ紡織九州	vs	大同特殊鋼				
		熊本県	山鹿市総合体育館					14:00	オムロン	vs	三重バイオレットアイリス
		鹿児島県	霧島市国分体育館					14:00	ソニーセミコンダクタ	vs	広島メイプルレッズ
		沖縄県	浦添市民体育館	15:30	湧永製薬	vs	トヨタ自動車東日本				
				18:00	琉球コラソン	vs	北陸電力				
	11月9日（日）	佐賀県	神埼中央公園体育館	13:00	トヨタ車体	vs	大同特殊鋼				
				15:00	トヨタ紡織九州	vs	豊田合成				
		熊本県	山鹿市総合体育館					11:00	北國銀行	vs	飛騨高山ブラックブルズ岐阜
								13:25	オムロン	vs	広島メイプルレッズ
		鹿児島県	霧島市国分体育館					14:00	ソニーセミコンダクタ	vs	ＨＣ名古屋
		沖縄県	浦添市民体育館	12:30	北陸電力	vs	湧永製薬				
				15:00	琉球コラソン	vs	トヨタ自動車東日本				
4	11月15日（土）	宮城県	フラップ大郷21	13:00	トヨタ自動車東日本	vs	トヨタ紡織九州				
		埼玉県	和光市総合体育館	15:00	大崎電気	vs	北陸電力				
		愛知県	中村スポーツセンター	15:15	大同特殊鋼	vs	湧永製薬	13:00	ＨＣ名古屋	vs	飛騨高山ブラックブルズ岐阜
		愛知県	ＴＧアリーナ	14:00	豊田合成	vs	トヨタ車体				
5	11月22日（土）	山形県	東根市民体育館	15:00	トヨタ自動車東日本	vs	大同特殊鋼				
		愛知県	ＴＧアリーナ	14:00	豊田合成	vs	北陸電力				
		広島県	東区スポーツセンター					13:00	広島メイプルレッズ	vs	三重バイオレットアイリス
								15:00	ソニーセミコンダクタ	vs	北國銀行
	11月23日（日）	岐阜県	ヒマラヤアリーナ	18:30	大崎電気	vs	湧永製薬	16:00	飛騨高山ブラックブルズ岐阜	vs	オムロン
	11月24日（月）	石川県	義経アリーナ（末広体育館）					13:00	北國銀行	vs	三重バイオレットアイリス
		広島県	中区スポーツセンター					14:00	広島メイプルレッズ	vs	ＨＣ名古屋
		沖縄県	沖縄市体育館	14:00	琉球コラソン	vs	トヨタ車体				
6	11月29日（土）	石川県	小松総合体育館					12:00	北國銀行	vs	広島メイプルレッズ
		福井県	北陸電力福井体育館フレア	15:00	北陸電力	vs	トヨタ自動車東日本	13:00	三重バイオレットアイリス	vs	飛騨高山ブラックブルズ岐阜
		宮崎県	小林市市民体育館	13:00	湧永製薬	vs	トヨタ紡織九州				
				16:00	トヨタ車体	vs	大崎電気				
	11月30日（日）	山梨県	甲州市塩山体育館	13:00	琉球コラソン	vs	豊田合成				
7	12月6日（土）	愛知県	枇杷島スポーツセンター	13:00	琉球コラソン	vs	湧永製薬				
				15:15	大同特殊鋼	vs	大崎電気				
			ウィングアリーナ刈谷	12:00	豊田合成	vs	トヨタ自動車東日本				
				14:00	トヨタ車体	vs	トヨタ紡織九州				
		熊本県	山鹿市鹿本体育館					14:00	オムロン	vs	ＨＣ名古屋
	12月7日（日）	福井県	北陸電力福井体育館フレア	13:00	大崎電気	vs	トヨタ自動車東日本				
				15:00	北陸電力	vs	大同特殊鋼				
		愛知県	知立市福祉体育館	11:15	トヨタ車体	vs	湧永製薬				
				13:15	トヨタ紡織九州	vs	琉球コラソン				
		熊本県	山鹿市鹿央体育館					14:00	オムロン	vs	ソニーセミコンダクタ
8	12月13日（土）	埼玉県	和光市総合体育館	14:00	大崎電気	vs	トヨタ紡織九州				
		愛知県	枇杷島スポーツセンター	12:45	トヨタ車体	vs	北陸電力	10:30	ＨＣ名古屋	vs	飛騨高山ブラックブルズ岐阜
				15:00	大同特殊鋼	vs	琉球コラソン				
	12月14日（日）	広島県	中区スポーツセンター					14:00	広島メイプルレッズ	vs	ソニーセミコンダクタ
		高知県	高知県東部総合運動場　くろしおアリーナ	13:30	豊田合成	vs	湧永製薬				
		熊本県	山鹿市鹿本体育館					14:00	オムロン	vs	三重バイオレットアイリス

9	2015年 1月10日（土）	石川県	小松総合体育館					18:00	北國銀行	vs	広島メイプルレッズ
		三重県	四日市中央緑地体育館					12:00	ソニーセミコンダクタ	vs	オムロン
								14:30	三重バイオレットアイリス	vs	飛騨高山ブラックブルズ岐阜
	1月11日（日）	石川県	小松総合体育館	18:00	大同特殊鋼	vs	トヨタ紡織九州				
	1月12日（月）	福井県	北陸電力福井体育館フレア	14:00	北陸電力	vs	トヨタ紡織九州				
		岐阜県	飛騨高山ビッグアリーナ					13:00	ＨＣ名古屋	vs	ソニーセミコンダクタ
								15:30	飛騨高山ブラックブルズ岐阜	vs	北國銀行
		広島県	東区スポーツセンター					14:00	広島メイプルレッズ	vs	オムロン
10	1月17日（土）	広島県	東区スポーツセンター					14:00	広島メイプルレッズ	vs	三重バイオレットアイリス
	1月18日（日）	福井県	北陸電力福井体育館フレア					14:00	北國銀行	vs	ソニーセミコンダクタ
		愛知県	ブラザー体育館					13:00	ＨＣ名古屋	vs	オムロン
11	1月24日（土）	石川県	金沢市総合体育館					13:00	広島メイプルレッズ	vs	飛騨高山ブラックブルズ岐阜
								15:00	北國銀行	vs	ＨＣ名古屋
		三重県	鈴鹿市立体育館					13:00	三重バイオレットアイリス	vs	ソニーセミコンダクタ
	1月25日（日）	三重県	鈴鹿市立体育館					14:00	三重バイオレットアイリス	vs	ＨＣ名古屋
		京都府	島津アリーナ京都					13:00	ソニーセミコンダクタ	vs	飛騨高山ブラックブルズ岐阜
								15:00	オムロン	vs	北國銀行
12	1月31日（土）	鹿児島県	霧島市国分体育館					14:00	ソニーセミコンダクタ	vs	広島メイプルレッズ
	2月1日（日）	愛知県	ブラザー体育館	15:15	豊田合成	vs	大崎電気	13:00	ＨＣ名古屋	vs	飛騨高山ブラックブルズ岐阜
		三重県	名張市総合体育館					14:00	三重バイオレットアイリス	vs	オムロン
13	2月7日（土）	宮城県	大和町総合体育館	13:00	トヨタ自動車東日本	vs	トヨタ車体				
		愛知県	ＴＧアリーナ	15:30	豊田合成	vs	大同特殊鋼	13:00	ＨＣ名古屋	vs	ソニーセミコンダクタ
	2月8日（日）	石川県	小松総合体育館					13:00	北國銀行	vs	飛騨高山ブラックブルズ岐阜
		愛媛県	西条市総合体育館					13:00	広島メイプルレッズ	vs	オムロン
		沖縄県	名護21世紀の森体育館	14:00	琉球コラソン	vs	大崎電気				
	2月11日（水）	岐阜県	飛騨高山ビッグアリーナ					13:00	飛騨高山ブラックブルズ岐阜	vs	三重バイオレットアイリス
		大阪府	八尾市立総合体育館	14:00	湧永製薬	vs	大崎電気				
		広島県	中区スポーツセンター					14:00	広島メイプルレッズ	vs	北國銀行
		福岡県	福岡県スポーツ科学情報センター（アクシオン福岡）	14:00	北陸電力	vs	豊田合成				
		熊本県	山鹿市総合体育館					18:00	オムロン	vs	ソニーセミコンダクタ
		大分県	別府市総合体育館（べっぷアリーナ）	12:30	トヨタ車体	vs	琉球コラソン				
				14:30	大同特殊鋼	vs	トヨタ自動車東日本				
14	2月14日（土）	石川県	金沢市総合体育館					13:00	北國銀行	vs	ソニーセミコンダクタ
		愛知県	刈谷市体育館	14:00	トヨタ車体	vs	豊田合成	12:00	ＨＣ名古屋	vs	オムロン
		三重県	鈴鹿市立体育館	13:00	トヨタ紡織九州	vs	トヨタ自動車東日本	15:00	三重バイオレットアイリス	vs	広島メイプルレッズ
		広島県	湧永満之記念体育館	14:00	湧永製薬	vs	大同特殊鋼				
	2月15日（日）	福井県	北陸電力福井体育館フレア	15:00	北陸電力	vs	大崎電気	13:00	オムロン	vs	飛騨高山ブラックブルズ岐阜
		三重県	鈴鹿市立体育館					13:00	ＨＣ名古屋	vs	広島メイプルレッズ
								15:00	三重バイオレットアイリス	vs	北國銀行
15	2月21日（土）	岩手県	花巻市総合体育館	13:00	琉球コラソン	vs	北陸電力				
				15:00	トヨタ自動車東日本	vs	湧永製薬				
		愛知県	ブラザー体育館					13:00	三重バイオレットアイリス	vs	ソニーセミコンダクタ
								15:15	ＨＣ名古屋	vs	北國銀行
		岐阜県	下呂交流会館					13:00	飛騨高山ブラックブルズ岐阜	vs	広島メイプルレッズ
	2月22日（日）	宮城県	フラップ大郷21	12:00	湧永製薬	vs	北陸電力				
				14:30	トヨタ自動車東日本	vs	琉球コラソン				
		東京都	武蔵村山市総合体育館	12:30	豊田合成	vs	トヨタ紡織九州				
				15:00	大同特殊鋼	vs	トヨタ車体				
		愛知県	ブラザー体育館					13:00	北國銀行	vs	オムロン
								15:15	ＨＣ名古屋	vs	三重バイオレットアイリス
		岐阜県	下呂交流会館					13:00	飛騨高山ブラックブルズ岐阜	vs	ソニーセミコンダクタ
16	2月28日（土）	福井県	北陸電力福井体育館フレア	14:00	北陸電力	vs	トヨタ車体				
		広島県	東区スポーツセンター	13:00	湧永製薬	vs	豊田合成				
		佐賀県	佐賀県総合体育館	15:00	トヨタ紡織九州	vs	大崎電気				
		沖縄県	沖縄県立武道館	14:00	琉球コラソン	vs	大同特殊鋼				
17	3月7日（土）	宮城県	フラップ大郷21	13:00	トヨタ自動車東日本	vs	北陸電力				
		愛知県	ＴＧアリーナ	14:00	豊田合成	vs	琉球コラソン				
		熊本県	人吉スポーツパレス	14:00	大崎電気	vs	トヨタ車体				
	3月8日（日）	佐賀県	神埼中央公園体育館	15:00	トヨタ紡織九州	vs	湧永製薬				

プレーオフ女子	2月28日（土）	石川県	小松総合体育館		準決勝
					準決勝
	3月1日（日）	石川県	小松総合体育館		決　勝

プレーオフ男子	3月21日（土）	東京都	駒沢体育館		準決勝
					準決勝
	3月22日（日）	東京都	駒沢体育館		（ジュニアリーグ優勝決定戦）
					決　勝

～「おりひめ」もっとアピールしよう～

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

それにしても驚きのひと言。一方で、うらやましい限り―。少々、話はさかのぼるが、ブンデスリーガで観客数世界最多を更新した。驚くなかれ、その数は44,189人。世界選手権でも、オリンピックでもない国内リーグでの達成だから、なおのことびっくり仰天だ。これまでのブンデスリーガ記録が30,925人だから、13,000人強増えたことになる。会場がサッカースタジアムだったというが、それにしても日本とは比べようがないのは、悔しいし、寂しい。

いきなり話はそれたが、日本リーグが開幕、短期決戦での勝負が続く。特に女子はアジア選手権の日程変更もあって、いっそう過密スケジュールを余儀なくされている。４強の一角をどこが崩すかも注目だ。

女子のアジア選手権は来年３月中旬、インドネシアでの開催となった。大幅な日程変更はアジア連盟の指導力の無さをさらけ出したと言われても仕方ないだろう。以前、五輪予選で"中東の笛"の失態を演じているだけに、またか―の思いを強くした。

それはともかく、昨年の世界選手権を控えて公募し「おりひめジャパン」に決まった女子日本代表の愛称がかすんでいる気がする。せっかくの愛称をどんどん利用しない手はない。世界選手権用ではないはずだ。仁川アジア大会でもアピールする機会は多くあったと思う。

かつて男子には「ムササビ・ジャパン」、女子には「レインボー・ジャパン」の愛称があった。しかし、いずれも、いつの間にか聞かれなくなった経緯がある。今回もこのままでは同じテツを踏むのではないかとの懸念がある。危機感が募る一方だ。公募していただいた多くの人たちにも失礼ではないだろうか。日本代表のメンバーを発表する際には、積極的にアピールして定着させることが重要だ。

～「おりひめジャパン」女子日本代表～

この枕言葉を一つ加えることで、事は足りる。

代表メンバーだけでなく、代表候補合宿招集メンバー発表などいろんな機会をとらえて、アクションを起こしたいものである。

各競技団体もそれぞれ愛称をつけているが、あまり浸透していないのも事実だ。せいぜいサッカーの「なでしこジャパン」くらいだ。サッカーは女子リーグを「なでしこリーグ」と名付けるなどアピールして成功した。ハンドボール界も多くの人たちと意識を共有して積極的に"愛称売り込み作戦"を展開したい。日本リーグ会場にも「おりひめジャパン」女子日本代表の横断幕を掲げるのも一つの方法かもしれない。いずれにしろ「おりひめ」の定着手段を考えたいものだ。



インタビュー

筑波大学大学院准教授
高橋義雄氏に聞く
競技団体の経営力とその課題

昨年2020年東京五輪開催の決定を受け国内競技団体（以下、NFと記す）は多くの公的資金援助で強化に邁進している所である。その一方では、2020年以降の強化・普及に懸念を抱く報道もある。平成26年10月7日付けの日本経済新聞朝刊スポーツ欄には、「東京五輪半世紀・次の50年へ」と題してNFの動向に関する記事が掲載され、其の中でスポーツ界を見渡したとき、経営感覚を備えたNFはまだまだ少ないとしている。成長率の鈍化と少子化が進み、2020年東京五輪後は50年前のような成長機会に浴することは難しい。筑波大学大学院准教授高橋義雄氏は「競技間でメジャーとマイナーの二極化に拍車がかかる」とし、NFの経営力が問われる時代が待っているとしている。そこで今回、同氏に「競技団体の経営力とその課題について」伺う機会を得た。同氏は日本トップリーグ連携機構・事業推進委員会アドバイザー　プロジェクトリーダーにも就かれ、スポーツ経営・行政全般に造詣が深く、関連の論文・著書も多数ある。

●NFが取り組む課題とは

一般論的に話をすれば、NFが出来ることは代表チームが好成績を残し、多くの日本人に感動経験を味わっていただくことです。それにより多くの人たちが興味関心を持って、自らもその競技に関わりたい、してみたいと思わせることが大切です。このように代表チームの強化と同時並行的に取り組むべき課題が「普及」だと考えます。せっかく感動・感銘を受けても、活動する場所や観戦する機会などが身近に無ければ、「普及」の機会を逃すことになります。これまでは、各NFのボランティアの熱意で普及がされてきましたが、2020年以降の社会情勢を鑑みれば、学校や企業に依存せずNFが自らの手で競技運営や競技人口の普及・拡大を図る実行力が必要になってきます。それには競技をするクラブや地域の活動が経営的に成り立つように取組み、競技に触れる機会を増やさなければなりません。これには、特に地域を束ねる都道府県の組織が法人化、専任化し、競技やイベントを自ら開催をできる力を整備していく必要があります。代表チームの成績アップと、普及が担うべき周辺の受け皿の整備は、正に同時並行で進めていかなくてはならない理由です。又、活動資金からみれば、2020年までは公的資金もそれなりに用意されて活動上のサポートも期待できますが、2020年以降は徐々に減っていく傾向となるのは間違いなく、その穴埋めはNF自らが登録費や登録者・愛好家を対象とした層へのアプローチによる収入拡大や、更には、より広い市場（マーケット）から資金を得る能力をつけていくことが大事になります。

●NFが有する経営力とは

NFが自ら経済的に力を付けるには、先ずできることは代表チームの価値の向上です。それには、代表チームの国際試合を数多く開催し、より良い成績を上げ、そこから得られる収益を都道府県組織と協働していくことが求められます。このためには、トップレベルのチームを所有する企業の支援も当然必要になりますので、事前の十分な話し合いも必要になるでしょう。と言いますのもスポーツ自体を商品とするプロスポーツクラブが少なく、本業がほかにある企業をベースとしたチーム環境の現在では、試合数の増加は、一層チームを所有する企業への負担を強いることになるからです。しかしながら、代表チームのレベルアップには、代表選手を輩出しているトップリーグの公式試合数の増加は必須であり、この結果代表チームが好成績を挙げることで、人々の興味関心が高まり、ファンの拡大に繋がれば、より多くの人々とコミュニケーションをとりたいスポンサー企業にとっても嬉しい限りです。もちろん競技愛好家も家庭や職場で自ら経験した競技の話ができる雰囲気も醸成され、会話が弾むことで新たな元気が出てくるでしょう。ここで少し愛好家について考えてみると、一般的にNFの登録人口は中学・高校と競技に取り組んでも大学・社会人となるに連れて大幅に減るのが現状です。しかしながら登録をしない競技経験者を見ればその数は確実に増えており、この層へのアプローチは、NFの極めて大事な普及活動に当たります。残念ながらこの視点での取り組みを進めているNFは極めて少ない状況にあります。久々に自ら経験した競技に参加できるイベントへの勧誘、家族を同伴しての観戦、

参加できるイベントの開催など、都道府県地域組織やNFの運営力、企画力が試されることになります。加えて現在協賛いただいている各スポンサーとの関係をどのように進めていくのか。これからはNFとスポンサーは競技の普及や代表の強化が、互いの使命を果たすことになるという認識を共有するパートナーであることが求められます。NF登録者及び愛好家を含めた相当数の市場を持つNFはこれに気づき、その市場に打って出たいパートナーと協働し、お互いの収益拡大へのアプローチが出来る企画力とセンスが必須の状況にあり、既に、実行しているNFも散見されてきています。

●イギリスの事例では

昨今ではNFの組織を「強化」のもとに「普及」を置くのではなく、「普及」を別部門として分離し、強化はテクニカルな事項、勝つためのノウハウなどに集中して取り組み、普及は競技の魅力を利用して愛好者を増やし、スポンサーへの売り込みや愛好家の増加に、従来とは異なり「ビジネス」の視点を入れて取組んでます。その視点とは、一般の企業では当たり前ですが、自前の商品（競技の魅力）をしっかり把握したうえで、どのように商売（スポンサー・愛好家などへ）していけるか、マーケティング思考を持つことです。このようにNFもビジネスの感覚がなければ存在できない環境も迫ってきています。スポンサーや愛好家の求めるソリューション（解決策）として何ができるか、従来とは逆の目線での思考が求められます。

●経営力を向上させる組織とは

スポーツ界ではややもすれば、過去の競技成績、学閥、個人的な利害関係、はたまた心情などが優先して経営判断を鈍らせた組織が形成されてきた感がありますが、これからは一般企業のように、競技経験は無くとも経営戦略の立案やマーケティングの分析などができるプロのビジネスマンの登用が必須となってきます。隆盛を極める日本サッカー協会では、サッカーの競技歴がそれほどでなくても、専門家・プロの目線でのマーケティングや財務関連の改革推進のできる人材が登用されたことで、現在のように日本のスポーツをリードする組織へと変貌したことは間違いありません。

●競技者のプロ化の流れについて

野球、サッカーなどはプロ選手が中心に活躍していますが、その他の経営規模の小さなNFがプロ選手を抱えるのは厳しいでしょう。一つの大きな要因としては、競技を開催する施設の大きさがあります。野球やサッカーは一度に数万人を収容できる会場が確保されていますが、その他体育館で開催される競技種目のNFでは観客動員数千の会場がやっとの状況です。観客の確保とその他収益の目途が立たなければプロ化への歩みは厳しい状況ではないでしょうか。「プロ」「アマ」の線引きも時代と共に変わってきており、本当の「プロ」とは、スポーツ活動を請負契約する選手のことであり、企業と有期雇用契約を結び、企業の社会保険に加入している契約社員はあくまでもその企業の社員選手であり真のプロとは言えないでしょう。昨今では、競技引退後の生活を不安に思い、企業の正社員として選手生活を望む人たちも増えています。しかし世界でメダルを獲ることを考えれば、競技者のプロ化が可能な仕組みづくりが求められています。

● NFが直ぐにでも実践できる事は

先ずは、既存の協賛パートナーの求めることに耳を傾け、協賛パートナーとともに競技の価値を上げ更にこれを広く知らしめることです。NFとともに、ビジネスチャンスが拡大することを提案していくのです。例えば、ラグビーなどは、トップリーグに参加するチームを所有する企業の社長や部長の集める会などを開催し、NFに参加する企業相互のビジネスチャンスを拡大する切っ掛け作りや、情報の共有化を積極的に進め、パートナーとして意思疎通をまめに図っています。NFもビジネス集団に変貌する時代に来ています。

●最後に

競技の普及・発展はNFの使命です。競技の魅力を伝え競技人口の拡大を果たすとともに、全く競技に関わらない人へ自ら競技の魅力や面白さを啓発していくことも大事です。それには、組織全体の方向性を指し示し、ビジネス視点の観点から戦略性を持ったNFの経営が求められます。大変革か、一歩ずつの地道な改革か、夫々のNFで歩みの速度の違いはあるでしょうが、危機意識をもって時代環境や競技を取り巻く情勢を見据えての前進が必須です。何事も人材確保と組織経営は、NFに限らず通常の社会でも大きな課題です。NFの更なる前進を期待し、2020年以降も各NFが社会に多大な貢献をされることを祈念しています。



帯同報告（第6回ユースアジア選手権）

帯同ドクター　大西信三（筑波大学附属病院）

【出発まで】

本大会は2015年ロシア世界ユース選手権への出場がかかっており、早期より準備をすすめていた男子ユース代表チームでしたが、帯同ドクターの選任が遅れ、チームに参加したのが出発間近の8月9日(合宿時)となりました。この日にアンチドーピング・熱中症・水分補給法に関しての講義、選手達の既往・現病歴、使用薬剤・サプリメント等の確認を行いました。治療に必要かつ申請を要する薬剤の使用はありませんでした。

【現地入りまで】

8月31日、宿泊先や会場もわからず、一抹の不安を抱えながら日本を発ちました。

成田→UAE（アラブ首長国連邦）のアブダビ（約12時間）→ヨルダン（4時間）のフライトで、ヨルダンとの時差は6時間、西向きの移動のため影響は少ないと考えられましたが、事前にチームで作成したLINEグループへ時差対策を流しました。

システムダウンにより空港でのチェックインに時間がかかり、搭乗までにエコノミークラス症候群（静脈血栓症）や時差の具体的対策の話をする時間がとれなかったので、事前の資料配布で対応すべきでした。現地到着時にはヨルダン協会の方とバスが来て安心しました。

【現地生活環境】

ヨルダンの気温は東京と同程度で、日差しは強いが湿度が低く、暑さに苦しまずにすみました。ホテルは現地の四つ星ホテルで、部屋は問題なかったのですが、やはりサービスや対応は日本に比べるべくもありませんでした（お願いしてから20～30分かかったり、結局対応してくれなかったり）。現地では英語も通じますが、アラビア語が主体でした。例えばホテルのレセプションでは英語が通じますが、その他の従業員には通じない、チームガイドに英語が通じるが、バスのドライバーには通じない、といった様子です。



ホテル隣、馬のいる空き地で体を動かす選手達

【食事】

2008年の第3回アジアユース大会もヨルダンで開催され、その際は5～6kg体重減少があった選手もいたそうです。日本からインスタント食品を多めに持ち込み、現地で電子レンジとケトルを買い現地食と組み合わせました。今大会では下痢の症状が出たのは3名程度で体重減少者もほとんど出ませんでしたが、ホテルの食事はバラエティに少なく、生野菜が摂取できないこともあってビタミン不足は明らかでした。このためか口内炎にやはり3名程苦しみ、口内炎薬剤の追加も今後必要と考えます。



ビュッフェ形式のホテル食

【移動】

会場まで10分程マイクロバスでの移動でした。小さいため、一人は荷物の上に座るような状態でした。スクールバスが提供されているためドライバーが他の仕事も抱えており、練習・試合への送迎に限られ、使える自由度は低い印象でした。

【外傷】

大会期間中、試合・練習での足関節捻挫・大腿打撲等は、大岡トレーナーの処置によりほとんど続行可能でした。残念だったのは練習中に手指が相手の服に引っかかり、手関節背屈、手指には伸展強制・回旋力が加わり中手骨骨折を受傷し戦線離脱した選手が出た事です。ヨルダンでは病院によって診療費が違うようで、ヨルダン協会の方に病院に連れて行ってもらいました。現地ドクターとは英語でやりとり可能で、処置も適切でした。レントゲン（フィルム現像含む）・シーネ固定で日本円にして7500円程で、保険なしということを考えればそれ程高くありませんでしたが、高い病院ではこの4倍程請求されるそうです。手書きでの紹介状とレントゲンフィルムを日本帰国時に選手に渡しました。





現地病院とドクター

【練習日程調整など】

チームガイドとの練習日程調整等が今大会で一番大変でした。通達された日程が二転三転、前日に決めた事が翌日には変更になったりしたためです。パスポート・メンバー表等の確認を行っているにもかかわらずIDカードの名前が違っていたり、IDカードが無い選手がいたりしました。大会最後に渡された参加賞では、2枚ある選手・無い選手が2～3名ずついるという、ずさんな形でした。その他にも、ミーティングで決めたユニフォームの色を守らないチーム、国歌は決勝戦のみ放送、それも機器の不調で韓国チームのものは放送できない、会場での喫煙可、ナッツの殻等ゴミが観客席に散乱、等日本では考えられない事ばかりでした。そのような中、ドーピング検査等は当然ありませんでした。



チームガイドの keem Tamrkhan 氏、テクニカルミーティングにて

【全体を通して】

大会運営に振り回された事、骨折者が出た事以外には大きなトラブルなく、海外が初めての選手も多く良い経験になったと思います。ホテルではWi-Fiも使用でき、注意点等は基本的にはミーティングで伝えましたがLINEグループを使用する事もありました。医科学的には今回の経験を今後の中東への遠征・大会で生かせるようにするなど地域の特徴等を蓄積していければと思います。志々場団長、内記監督、北林コーチ、大岡トレーナーには大変お世話になり、感動を与えてくれた選手達にも感謝したいと思います。2015ロシア世界ユースでも良い成績が残せるよう願っております。



応援に来ていただいた現地在住日本人の方と

2014NTS 東海ブロックトレーニング

春日丘高校　**山本 賢太郎**



①各ブロックトレーニング全体総括・総評

トレーニングの開始を前に、選手に向けて「2020年」について話があった。本トレーニングへ参加した選手が東京オリンピックで活躍するようになって欲しいという期待を込めたメッセージに集まった選手一同は、強い意欲をもってトレーニングを始めた。

ディフェンストレーニングにおいては、タイトマークとディープコンタクトをねらいとし、コンタクトへの抵抗感をなくす簡易的なものから、より強く激しくコンタクトするものへと系統性を持たせたトレーニングであった。そのなかで、フットワーク、ボディコントロールといった基本的な体の使い方の説明とトレーニングを行った。ブロックトレーニングに推薦されてきた選手であっても基本的な体の使い方が理解されておらず、今後の反復トレーニングの必要性が感じられた。グループスキルにおいては、まずは1対1でのディープコンタクトを念頭におきながら、セカンドディフェンスの判断（フォローが必要か否か、牽制の駆け引き等）を予測的に行うようなトレーニングであった。選手の中には、その場の思いつきでプレーを選択するものも多く、状況判断をするための根拠が何であるかを明確にし、根拠を持って判断を行うことが必要であると説明された。

オフェンストレーニングではこれまでのトランジションやポジションチェンジを多用したものから、ポジションプレーを中心としたプレーが求められた。個人スキルトレーニングで行われた、傾斜の動きつくりのためのトレーニングでは、参加した指導者から「経験的に、女子にこの動き作りをさせるためには段階的に行わないと怪我が発生する」といった意見もあり、トレーニング方法の検討やより細かく段階を分けたトレーニングの提示が必要である。グループスキルトレーニングにおいても、根拠をもった正しい状況判断のもとプレーをすることが求められた。目の前のディフェンス状況を的確に判断した上でのプレーの選択が必要であり、選手の中では、前の状況を正しく判断する習慣が身についている選手とそうでない選手との差がはっきりと分かれた。

②各カテゴリー（高校・中学・小学）の指導ポイントなど

小学生：8月24日（日）春日丘高校体育館にて、NTS東海ブロックトレーニング小学生の部がU-12技術指導委員長濱野健一氏、インストラクター橋本勝氏の指導のもと東海4県から選出された選手、並びに各チーム指導者を対象に開催された。トレーニングスタートのアイスブレーキングを通して、打ち解け合った選手達は、W-UPとして、受け身（ローリング、スライディング等）、ドリブルランニング（2人ドリブル側逃げ等）、ステップワーク（ファンダメンタルムーブメント等）、パス（ワンフェイクパス、ラテラル逆スピンパス、クロスランパス、片側蛇行ランパス、リードパス等）に取り組んだ。初めて行う動きのトレーニングに戸惑いながらも、自主的に何度も挑戦を重ね、小学生ならではの優れた適応力を発揮して、求められたスキルを着実に習得していく選手の姿が印象的であった。

中学生：中学生に対して、インストラクターから「正しい状況判断」をすることをくり返し求めていた。状況に応じたプレーの選択を行うことをできるだけ早い段階から行って欲しいとのメッセージと、どのようにして正しい状況判断を行うのかを技術として紹介された。

はじめは戸惑いながらプレーをしていた選手が多く、結果的にシュートが決まっていてもディフェンスに接触されていたり、乱れながらのパスが通ってしまったりしていた。ワンプレー毎に状況を再現し判断の根拠を示すことで適切な判断のもとにプレーができるようになっていった。今後は日頃から状況判断を習慣的に行えるようにトレーニングに励んでもらいたい。

高校生：高校生に対しては、オフェンスに対して力強く局面を打開することと、それに負けないようなディープコンタクトが要求された。

オフェンスでの適切なポジショニングからの状況判断をもとにして、プレーを選択すること。また、それを継続して続けることをトレーニングの中で求められた。オフェンスが完了しなかった場面でのリポジショニングの意識が低く、苦しい状況の中で確率の低いフィニッシュにいたってしまっていた。常に有利なポジショニングを行うためにどのような動きや体の使い方が必要かをトレーニングに取り入れた。

ディフェンスにおいては、スピードに乗ったオフェンスを守ることは困難なため、牽制によって相手のスピードや方向を限定し、そこから強くアタックするように求めた。



2014NTS 九州ブロックトレーニング

九州ブロック　**安達 隆博**



東京オリンピック開催が決定し、世界に JAPAN HANDBALL をアピールする機会を得たことを大変喜ばしく思っております。九州から一人でも多くの選手が世界の舞台で活躍することを願い、『九州はひとつ』を合い言葉に、新たな気持ちでジュニア世代の発掘・育成・強化に取り組むことを関係者一同確認したトレーニングとなりました。

本年度、九州では新しい指導システムを取り入れてトレーニングを行いました。九州ブロックでは長年にわたり、インストラクターに黄さん、小薮さん、金さん、末岡さん、北林さん、小波津さん、古谷さんといった日本を代表する経験豊かな指導者を揃え、充実したトレーニングを開催してきましたが、今回、すべての種別で九州各県より指導者を推薦してもらい分担してトレーニングを担当していただきました。これまでの補助的な役割ではなく、主導的に声を出し、時には選手とともに攻防戦が繰り広げられる場面もあり、これまでにない活発なトレーニングとなりました。トレーニング内容の打ち合わせをする時間が少ないといった問題点がありながらも、指導者の皆さんには臨機応変に対応していただきました。心より感謝致します。彼らが NTS の内容等々を各県に持ち帰り、講習を主導していただくようにお願いしております。センター、ブロックだけの NTS ではなく、各県単位でのレベルアップに役立てていただきたいと考えています。この指導システムは、各県のご意見を参考にしながら改善を図り、来年度も継続していきたいと考えております。また、センタートレーニングへは、選手とともに、これらの指導者の中から各種別数名を推薦しております。九州のアツい指導者が選手とともにセンターで活躍することを期待しております。

最後に、NTS 九州ブロック開催にあたり、ご理解、ご協力いただきました熊本県ハンドボール協会、山鹿市観光協会、また、デモンストレーションや運営にご協力いただきましたトヨタ紡織九州ならびにオムロンハンドボールチームの皆様に心よりお礼申し上げます。



平成26年度 NTS 近畿ブロックトレーニング　スポーツ栄養講座実施報告

JHA 医事専門委員会栄養部門　公認スポーツ栄養士　**村井 美保子**

8月23・24日に行われた NTS 近畿ブロックトレーニングにおいて、男子の中学生・高校生を対象に、食育のためのスポーツ栄養講座を実施いたしました。

「強い身体づくりのための食生活のポイント」と題して、大きく分けて以下の５つの項目について話しました。

1. 朝食は必ず食べること！　身体をウォーミングアップさせることが重要！
2. どんな身体になりたいか意識して食べる！　身体は自分が食べた物で出来ている！
3. サプリメントに頼る前に、まず食事を見直そう！　使用する場合は成分等の確認を忘れずに！
4. 水分補給はのどが渇く前からこまめに！　発汗量が多い時は必ずスポーツドリンクを飲もう！
5. 五大栄養素をしっかり覚えよう！　①炭水化物　②たん白質　③脂質　④ビタミン　⑤ミネラル（無機質）　これと一緒に『食事の基本形』を確認しよう！　①主食　②主菜　③副菜　④牛乳・乳製品　⑤果物

選手の食事は、運動によって消費したエネルギーや様々な栄養素を、質・量ともに補うものであることが必要です。そして、「成長期」という一生の内で特別な時期の選手にとっては、消費した分を補うだけではなく成長する分をプラスして補給しなければ、思うように身体は大きくなりません。トレーニング成果を最大限に発揮出来る当たり負けしない強い身体を作るために、毎日の食事を見直して競技力向上を目指して行きましょう。

（今後、上記５項目の詳細説明を含めた食育連載を、本誌上にて予定しております。）



【写真1】真剣な表情でしっかりと話を聞いてくれた選手の皆さん。さらに強くなりたいという熱い気持ちが伝わります。



【写真2】とても暑い日でしたが、NTS の特別なトレーニングに集中して取り組んでいました。

報告

第17回アジア競技大会に参加して

国際審判員　檜﨑　潔



9月20日から10月2日まで韓国の仁川にて行われたアジア競技大会に、前回の広州大会に続いてペアの池渕智一氏とともにレフェリーとして参加しました。日本からは我々の他にTDとして後藤登、仲田稔の両氏、レフェリーとして女性国際審判員である太田智子・島尻真理子ペアも参加しました。大会の様子やレフェリーが指導されたことなどをお伝えしたいと思います。

今大会のレフェリーは日本からの2ペアの他に、地元韓国から男女1ペアずつ、中国から女性が1ペア、その他は全て男性ペアでクウェート、イラン、バーレーン、UAE、イラク、タイからそれぞれ1ペアずつの全11ペアが参加しました。アジアの大会としては初めて3ペアもの女性ペアを参加させたことになります。このうち韓国と中国の女性ペアとイラクのペアはこの大会後にイランで行われるGRTPコースに参加するということでした。

我々は指定された9月16日に日本を出発して同日仁川着、同日午後にオフィシャルユニフォームを受け取るためメインスタジアムである仁川アシアド競技場へ行きましたが、午後から到着したメンバーたちは翌日17日に受け取りを行いました。

大会前のミニコースは18日に行われ、まずは7時30分からシャトルランテストを行いました。合格ラインはIHFと同じく男性が9.5ラウンド、女性は8.5ラウンドです。UAEの1人がテスト中に足を痛め途中棄権しましたが、その他のレフェリーは全員合格しました。この怪我のためUAEはペアで試合を担当することができず、実質10ペアで大会を進めることになりましたが、怪我をしていないUAEレフェリーには大会途中から韓国の男性ペアとイラク、バーレーンとのミックスカップルで数試合を担当させていました。

シャトルランテスト終了後は10時30分からランチ休憩を挟んで21時まで研修が行われました。研修でまず言われたことは、このアジア大会は4年に一度の大きなイベントであり、チームはメダルをかけて真剣に準備をしてきている。TDも含めて我々は今大会で最も強いチームでなければならない、ということでした。段階罰についての指導では、『Don't give cheap punishment.』ということを改めて言われました。現在の段階罰の考え方は以前のものとは変わっており、注意のためにイエローカードを使うのではなく、段階罰と直ちに2分間退場、そして失格のそれぞれの基準を明確にすることが求められています。つまり、試合終盤で段階罰により退場としないのであれば試合開始直後でも同じプレーに対してイエローカードを出すことはないということです。競技規則8条に書かれている各項目をしっかりと理解した上で判定基準を示さなければなりません。段階罰についてはビデオテストも行われ、30問のテストにペアで回答しました。このテストは点数を出すものではなく、回答回収後には全てのクリップを解説されました。また、以前から言われていますが、失格を判定する際には必ずペアで近づき、話し合いのもとで判定する（Joint decision）ようにということを改めて言われました。結果として2分間退場を判定する場合でもそのようにした方が良いということでした。

その他には7mtについての指導もあり、どの時点で明らかな得点チャンスを得たのかをよく観察するよう強く言われました。ゴールエリア内DFについては最初の接触が外である場合は7mtではないため、最初の接触がどこから始まったのかをしっかり観察するよう指導されました。また、ピボットポジションでよく起こる、ピボットプレイヤーがDFプレイヤーと接触しながらGKに背中を向けたままシュートを打つためにそのままの体勢でゴールエリア内に飛び込むようなプレーは7mtではないということでした。シューターがゴールに向かっている状態が明らかな得点チャンスであるということです。

細かいことでは、写真を見せながらCPが7人入っている場面やレフェリーが使っている笛の色、着地シュートや2分間退場のジェスチャーなどについて指導されました。また、この大会の直前にヨルダンで行われた男子ユースアジア選手権の映像も使って研修を行いました。

研修の最後にはルールテストが行われました。テストは30問を45分以内にペアで回答するもので何パターンかの問題があり、それをランダムに配布してカンニングを予防（？）していました。問題は基本的に問題集の中から出題されますが、中には新しい問題や選択肢の順番を変えているものもありました。

さて、試合の方は20日から予選リーグが始まり、毎日10時から21時過ぎまで試合が行われました。男子会場行

きのシャトルバスが３便、女子会場へは１便ホテルから出ており、レフェリーとデレゲートは自分の割り当てに合わせてシャトルバスで移動しました。会場にはレフェリー用の更衣室の他にリフレッシュメントルームも準備されており、そこで休憩できるように配慮されていました。毎日朝から夜遅くまで試合があるため毎日のミーティングは行われませんでしたが、２日あったレストデイの午前中には２時間ほどのミーティングが行われました。

今大会には前述の通り女性レフェリーが３ペア参加していましたので、女子の試合は女性レフェリーが担当することが多かったように思います。実際に女性ペアが男子の試合を担当したのは各ペア１、２試合で、太田・島尻ペアは担当した６試合のうち５試合が女子の試合でした。このような状況でしたので、我々ペアは女子の試合を吹く機会はありませんでした。やはりAHFもIHFと同じように女子の試合は女性レフェリーで運営したいと考えているようです。準決勝以降は男性ペアが担当しましたが、最終的に女性ペアが担当した順位決定戦では最も順位の高い５位決定戦を太田・島尻ペアが任されました。



我々ペアは大会を通して８試合の割り当てをいただきました。予定よりペア数が少なくなったのも理由だとは思いますが、１つの大会で８試合というのは今までにないくらい多く、序盤はほぼ毎日担当試合がありハードでした。残念ながら男子代表チームがメインラウンドへ進めなかったこともあり、大会中盤からは我々だけでもメダル争いに関わるゲームをという気持ちで臨み、準決勝、そして３位決定戦の割り当てをいただくことができました。３位決定戦の割り当てが発表された時には驚きもありましたが、大会最終日に割り当てをいただけるのは大変光栄なことですので喜びも大きかったです。アジアの大会での経験は少なくはないと思いますが、やはり大会終盤の、しかもメダルがかかった試合となると試合をコントロールするのは簡単ではありません。集中力を常に維持し、大会中のミーティング内容も含めて今まで学んできたことを100％出し、この試合が自分たちの将来を決めるんだ、ということを自分たちで言い聞かせながら吹笛しました。少しナーバスになってしまった部分はあったかもしれませんが何とか吹ききることができ、試合後にはお褒めの言葉をいただくこともできました。しかし、完璧な笛が吹けたかというとそうではありません。ミスもありましたし、選手・役員から判定へのアピールもありました。このような貴重な機会での経験を今後に活かすことが自分たちの目標を達成するための大きな課題であると感じています。今のパフォーマンスを落とすことなく一つずつ課題を克服し、まだまだ成長していかなければ目標は達成できないと思っていますので、立ち止まることなく研鑽していきたいと思います。



最後になりましたが、我々がこの度のアジア大会に参加するにあたってご理解・ご協力をいただいた関係各位、いつもご指導くださる諸先輩方に感謝を申し上げ、報告といたします。

第69回国民体育大会・長崎がんばらんば国体に参加をして

長崎県ハンドボール協会　浦川 寿生　石崎 章弘

平成26年10月16日から20日まで長崎県佐世保市において長崎がんばらんば国体が行われた。藤井審判長、島村・金子両副審判長、太田・島尻日本協会指名レフェリーをはじめ、全国から18ペアが参加し、審判団を組んだ。

前日の15日に審判会議が開かれ、レフェリングについてはもちろんのこと、レフェリーとして大会に臨む姿勢、言動などについても確認された。藤井審判長は「特に『レフェリーとしての20の約束』をしっかり守ってほしい。」と繰り返し話された。

初日の初戦から接戦が展開された。夜の反省会では藤井審判長からおもに4つの話があった。まず全国大会は研修の場ではないこと、次に不正な得点は認めないこと、罰則を的確にとること（特に即座に2分間退場の判断を的確にすること)、最後に「レフェリーとしての20の約束」を守ること、以上のことを確認して初日は終わった。

2日目は前日とは違う種別を担当するということで、成年から少年に変わるペアは「より丁寧に吹くこと」、少年から成年に変わるペアは「心して吹くこと」が試合担当の発表に際して確認された。地元長崎県チームの試合もあり、会場は大いに盛り上がった。反省会では藤井審判長から「もしかしたら我々は選手の人生を変えるかもしれない。明日からは大事な厳しい試合ばかりになるので、審判員としての自覚を今一度強くもって臨んでほしい。」と叱咤激励があった。

3日目、私たちは成年男子準決勝の埼玉県対宮城県を担当した。日本リーグ勢同士の一戦ということもあり、立ち上がりからどちらもハードに当たり合う罰則覚悟のディフェンスを繰り返した。カードを示しつつ、前半20分にはオフェンスとディフェンスが激しくやり合う場面があり、これに対する両者退場の判定を機に試合が落ち着き始めた。TDに入っておられた越田審査指導委員長からも「あそこがこの試合のポイントだった」と言われ、これまでの経験を活かし、勇気をもって判定することができて良かった。

4日目、私たちは成年男子決勝、埼玉県対愛知県の試合を担当した。私自身がいよいよ最後の試合になるということで、協会指名に恥じることなく、自分のすべてを出し、やり切って終わると心に決めて試合に臨んだ。激しい試合になると思いきや、どちらもクリーンなディフェンスで、選手やチームの良さを引き出すことだけを考えて吹笛していた。試合終了後には選手やコーチからもたくさん握手をしていただき、「大役を果たせてよかった」と安堵した。また、初めてハンドボールの試合を見た方と話す機会があり、「スピードがあって面白かった。テクニックも凄いし、さすがだと思った。ぶつかり合いは激しかったけど、フェアプレーに徹しているところが見ていてとてもよかった。また見たい。」と言われ、うれしさも込み上げた。

最終日は成年女子が石川県、少年男子は沖縄県が勝ち、前日の成年男子の埼玉県、少年女子の愛知県と共に、この4県の優勝で大会の幕を閉じた。大会期間中、どの競技会場でも役員の方、ボランティアの方、高校生らが選手やコーチ、我々審判員におもてなしの心をもって接してくださり、本当にありがたく、大変うれしい気持ちになった。大会実行委員の方々をはじめ、最終日まで大会に関わったすべての人に心からお礼を言いたい。

最後に、私は今大会をもって全日本大会から退くが、藤井審判長をはじめ、ペアの石崎氏、レフェリーの先輩や仲間の支え、職場の理解と家族の協力があってこそ28年もの間、審判の活動ができたと思う。感謝の気持ちでいっぱいである。今後は、若い審判員の育成などに微力ながら力を注いでいけたらと考えている。（浦川寿生）



写真左：石崎章弘氏、写真右：浦川寿生氏

第69回国民体育大会ハンドボール競技

開催期日：2014年10月16日(木)～20日(月)
会　場：長崎・佐世保市東部スポーツ広場体育館ほか

【成年男子】

▼１回戦
埼　玉 36（16－9、20－9）18 三　重
佐　賀 28（14－7、14－12）19 富　山
沖　縄 48（24－9、24－11）20 北海道
宮　城 32（15－9、17－8）17 京　都
広　島 34（16－10、18－21）31 山　梨
岩　手 20（12－6、8－11）17 和歌山
千　葉 26（11－12、15－7）19 香　川
愛　知 32（16－8、16－11）19 長　崎

▼準々決勝
埼　玉 33（11－12、22－17）29 佐　賀
宮　城 28（14－15、14－11）26 沖　縄
広　島 37（18－9、19－16）25 岩　手
愛　知 37（17－12、20－8）20 千　葉

▼準決勝
埼　玉 32（15－9、17－12）21 宮　城
愛　知 37（15－14、15－16）34 広　島
（3－1、4－3）

▼３位決定戦
宮　城 32（13－10、19－15）25 広　島

▼決　勝
埼　玉 32（17－13、15－8）21 愛　知

【成年女子】

▼１回戦
香　川 44（21－4、23－6）10 福　島
神奈川 33（13－12、20－13）25 富　山
三　重 25（12－5、13－8）13 和歌山

▼２回戦
石　川 28（15－6、13－4）10 香　川
東　京 30（9－13、15－11）29 沖　縄
（2－2、1－1）
（3　7mTC　2）
大　阪 23（11－7、12－8）15 長　崎
広　島 29（16－8、13－7）15 岐　阜
鹿児島 25（10－10、15－9）19 神奈川
岩　手 24（13－7、11－9）16 北海道
茨　城 29（14－11、15－10）21 山　口
熊　本 21（11－13、10－7）20 三　重

▼準々決勝
石　川 35（15－4、20－9）13 東　京
広　島 39（21－7、18－11）18 大　阪
鹿児島 35（15－6、20－7）13 岩　手
熊　本 32（15－4、17－8）12 茨　城

▼準決勝
石　川 28（14－10、14－12）22 広　島
熊　本 23（13－9、10－9）18 鹿児島

▼３位決定戦
鹿児島 26（13－13、13－10）23 広　島

▼決　勝
石　川 18（8－7、10－9）16 熊　本

【少年男子】

▼１回戦
兵　庫 43（26－10、17－15）25 福　島
三　重 29（16－12、13－14）26 福　岡
北海道 29（11－14、18－13）27 埼　玉

▼２回戦
沖　縄 42（20－10、22－17）27 兵　庫
千　葉 29（16－9、13－16）25 香　川
岡　山 25（12－7、13－16）23 茨　城
長　崎 21（9－15、12－5）20 愛　知
神奈川 32（14－10、18－12）22 三　重
福　井 36（15－9、21－13）22 山　口
京　都 30（15－12、15－13）25 岩　手
宮　崎 34（17－11、17－14）25 北海道

▼準々決勝
沖　縄 33（19－9、14－17）26 千　葉
岡　山 14（7－6、7－7）13 長　崎
神奈川 36（16－12、20－14）26 福　井
宮　崎 34（21－13、10－18）33 京　都
（0－1、3－1）

▼準決勝
沖　縄 36（11－8、25－12）20 岡　山
神奈川 36（20－16、16－16）32 宮　崎

▼３位決定戦
岡　山 23（14－11、9－10）21 宮　崎

▼決　勝
沖　縄 36（16－16、20－17）33 神奈川

【少年女子】

▼１回戦
東　京 43（22－14、21－12）26 秋　田
山　口 20（6－7、14－8）15 沖　縄
長　崎 26（13－11、13－12）23 大　阪
愛　知 35（16－11、19－11）22 埼　玉
宮　崎 24（13－6、11－14）20 香　川
兵　庫 22（9－11、13－8）19 千　葉
三　重 42（23－7、19－12）19 北海道
富　山 25（8－4、17－7）11 岩　手

▼準々決勝
東　京 22（10－9、12－12）21 山　口
愛　知 31（15－11、16－8）19 長　崎
兵　庫 18（9－6、9－9）15 宮　崎
三　重 24（15－9、9－10）19 富　山

▼準決勝
愛　知 24（10－9、14－4）13 東　京
三　重 29（13－9、16－12）21 兵　庫

▼３位決定戦
東　京 27（13－8、14－12）20 兵　庫

▼決　勝
愛　知 33（21－6、12－12）18 三　重

がんばれハンドボール20万人会「サポート会員」10月入会・継続会員

【埼玉】小澤隆志、小澤智子【東京】泉　直樹、東尾吉信、荒川晶夫、荒川留美【神奈川】島田信弘、白井　章【富山】林　裕子【静岡】細澤　覚、伊藤克美【愛知】臼井志保、伊藤十和奈、西　みどり【三重】福田亜紀【大阪】本田勝亮、中塚冨佐子【兵庫】阪本眞治、阪本千鶴子【広島】塩屋正子

【12月の行事予定】

【会議】……………………………………………………………

12月13日(土)　常務理事会

【大会】……………………………………………………………

12月24日(水)～28日(日)

第66回全日本総合選手権…　(愛知県・名古屋市)

12月25日(木)～28日(日)

第23回JOCジュニアオリンピックカップ

………………………………　(福島県・福島市)

HAND BALL CONTENTS Dec.

Jr 指導・活動の充実が普及・強化に繋がる！
………………………………………………… 山本　繁　1
2019 年女子世界選手権、2020 年東京オリンピックに向けての動向…………………………………川上憲太　2
第 17 回アジア競技大会
団長・川上憲太……………………………………………4
強化本部長・津川　昭……………………………………5
男子：監督・松井幸嗣、主将・岸川英誉……………6
女子：監督・栗山雅倫、選手・石野実加子…………8
第 69 回国民体育大会ハンドボール競技
総評：児玉浩三郎…………………………………… 10
成年男子優勝：埼玉県・岩本真典………………… 12
成年女子優勝：石川県・横嶋かおる……………… 12
少年男子優勝：沖縄県・下地利輝………………… 14
少年女子優勝：愛知県・浅野清隆………………… 14
第 39 回（2014 ～ 15 シーズン）日本ハンドボールリーグ開幕記者発表…………………………………………… 18
第 39 回日本ハンドボールリーグ日程変更について　21
改訂版：第 39 回日本ハンドボールリーグ日程表 … 22
フリースロー：「おりひめ」もっとアピールしよう
………………………………………… 早川文司　24
インタビュー：高橋義雄氏に聞く
競技団体の経営力とその課題……………………… 26
医事委員会だより：
帯同報告（第 6 回ユースアジア選手権）大西信三　28
2014NTS ブロックトレーニング
東海・山本賢太郎…………………………………… 30
九州・安達隆博……………………………………… 31
近畿（スポーツ栄養講座）・村井美保子 ………… 31
報告：第 17 回アジア競技大会に参加して
………………………………………… 檜崎　潔　32
審判部報告：第 69 回国民体育大会・長崎がんばらんば国体に参加をして　浦川寿生、石崎章弘…………… 34
スコアールーム：第 69 回国民体育大会ハンドボール競技…………………………………………………… 35

molten
For the real game



For the real game

「プレーヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」
私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに
世界に類のない、ボールとスポーツエキップメント・メーカーとして
常に完璧な製品づくりを目指しています。

(公財)日本ハンドボール協会編 『ハンドボール』第五四八号

平成二十六年十一月二十六日印刷
平成二十六年十二月一日発行

東京都渋谷区神南一―一―一
電話 代表〇三―三四八一―二三六〇
振替 〇〇一二〇―七―一〇二九三

編集兼発行人 川上憲太

定価 年間三三〇〇円